株式会社 ケンウッド

〒150-8501　東京都渋谷区道玄坂 1-14-6


● 商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。
お客様相談室（東京）電話（03）3477-5335 〒153-0042 東京都目黒区青葉台 3-17-9
（大阪）電話（06）6357-5335 〒534-0024 大阪市都島区東野田町 1-20-5（大阪京橋第一生命ビル）
● アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、添付の「ケンウッド サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスセンター、サービスステーションにご相談ください。

# avino

アンプ・チューナー/CDプレーヤー
# RD-VH7
カセットテープデッキ
# X-VH7

# 取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返してお読みください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

設置の際は"システム構成"と"設置のしかた"を必ずお読みのうえ正しく設置してください。 -12, -13


株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION


HDCD®

KENWOOD

B60-4279-00 00 (CH) (J) YG 9902

## アビーノシリーズについて

アビーノシリーズをお買い上げいただき、ありがとうございます。
本シリーズは、アンプ・チューナー/CDプレーヤーとMDレコーダー、カセットデッキを、お好みに合わせてお選びいただくことができます。
また、それぞれの機器をシステムコントロール接続すると、次のような便利なシステム操作ができますので、ぜひお試しください。

### リモートコントロール

アンプ・チューナー/CDプレーヤーに付属するリモコンで、ソース機器(カセットデッキ、MDレコーダー)の基本操作をすることができます。

### オートマチックオペレーション

アンプ・チューナー/CDプレーヤーで入力を切り換えると、切り換えられた入力のソース機器(CD、MD、カセット、チューナー)が自動的に再生を始めます。

### シンクロ録音

CDまたはMDから録音するとき、録音される機器の再生を始めると、連動して録音する機器のカセットデッキの録音をスタートさせることができます。

### タイマー動作

アンプ・チューナー/CDプレーヤーの時計機能を使って、ソース機器(CDプレーヤー、カセットデッキ、MDレコーダー、チューナー)のタイマー再生、タイマー録音ができます。

### アビーノVH7シリーズの構成機器

RD-VH7(アンプ・チューナー/CDプレーヤー)
DM-VH7(MDレコーダー)
X-VH7(カセットデッキ)

### 設置について

本機を設置する前に必ず"システム構成(12ページ)"、"設置のしかた(13ページ)"の項目をお読みください。

## 取扱説明書について

アビーノVH7シリーズの中にはRD-VH7(アンプ・チューナー/CDプレーヤー)、X-VH7(カセットデッキ)を説明したシステムの取扱説明書が付属している機種と、お買い上げいただいた機種の単独の取扱説明書が付属している機種があります。これは、別売の機器を後でお買い上げになっても、システム操作が簡単にできるように説明されているためです。お買い上げの機種にあわせて、必要な部分だけをお読みください。
なお、アビーノVH7シリーズの、DM-VH7(MDレコーダー)については、接続のしかたのみをシステムの取扱説明書で説明しています。詳しい操作のしかたにつきましては、DM-VH7に付属の取扱説明書をご覧ください。

| 機類名　(お買い上げの機種名) | | 付属する取扱説明書　(説明している機種名) |
|---|---|---|
| 組合せシステム | (VH-7MD) | システムの取扱説明書(RD-VH7、X-VH7) |
| | | 単独の取扱説明書(DM-VH7) |
| | (VH-7) | システムの取扱説明書(RD-VH7、X-VH7) |
| アンプ・チューナー/CDプレーヤー (RD-VH7) | | システムの取扱説明書(RD-VH7、X-VH7) |
| カセットデッキ　(X-VH7) | | 単独の取扱説明書(X-VH7) |
| MDレコーダー　(DM-VH7) | | 単独の取扱説明書(DM-VH7) |





# 目次

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

# 本機の特徴

### ❑ 音質にこだわったアンプ部(ピュアA増幅)

小音量時の音質を重視したピュアA再生モードを搭載。音量レベルにあわせて、自動的に音質が切り換わります。透明感のあるクリアな音質でお聴きください。

### ❑ フリーレイアウト

従来の横置きに加え、新感覚の縦置きにも対応しています。より、自由なセッティングがを楽しむことができます。

### ❑ バックライト付き液晶ディスプレイ

CDやラジオ等の動作状態が一目で判る高品位グラフィック表示ディスプレイを搭載。
横置き、縦置きに合せてディスプレイの表示方向が変ります。

### ❑ HDCD (高解像度記録)対応スロットインCDプレーヤー

HDCDフォーマットで記録されたCDを、より高い解像度とダイナミックレンジで再生します。
また、通常フォーマットのCDを再生時にも、通常のものよりきめ細かな再生音が楽しめます。

HDCD®、HDCD®、及びHigh Definition Compatible Digital®はPacific Microsonics Inc.の登録商標です。

### ❑ CDのテキスト情報表示機能(CD-TEXT対応)

CDに収録されているテキスト情報(ディスクタイトル、曲名)を表示することができます。

### ❑ 放送局をオートプリセットする (エリア別FM放送局名自動表示機能)

現在お住まいの都道府県名を設定すると、その地域で受信可能なFM放送局の周波数と放送局名を自動的に記録表示することができます。

### ❑ ワンタッチ・オペレーション再生

電源がオフ(スタンバイ時)でも、正面パネルのCD、MD、TAPEの各再生キーまたはチューナーの"band"キーを押すだけで簡単にそれぞれのソースを再生することができます。

### ❑ 便利なタイマー機能

① **O.T.T.機能:**
設定した時間になると、1時間だけ(1回のみ)動作します。
② **タイマー再生、タイマー録音機能:**
タイマー再生(AIタイマー再生)とタイマー録音を2系統(PROG.1, PROG.2)設定ができます。
(AIタイマーは、タイマー再生開始後、一定のレベルまで徐々に音量が上がります。)
③ **スリープタイマー機能:**
設定時間になると自動的にパワーがオフになります。就寝時など音楽を聴きながら、お休みになりたいときに便利です。



### デモンストレーションについて

**各動作を示す表示部が順に変化する機能です。この機能が働いている時は、音の変化はありません。
また、各ソースの再生中(録音中)には動作しません。**

● 電源がオン状態のとき、停電があったり電源プラグを抜き差しすると、自動的に"DEMO ON"になります。

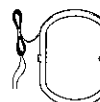
**DEMO ON (実行):**
**電源がオンの時に本体の"auto/mono, demo"キーを2秒以上押す**

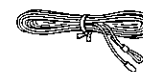
**DEMO OFF (デモンストレーション解除):**
**"DEMO ON"中に"auto/mono, demo"キーを押す**

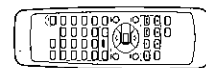
### 付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

《RD-VH7に付属》

AM ループアンテナ(1個)

AMループアンテナスタンド(1個)

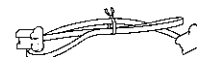
FM 室内アンテナ(1本)

取り換え用前脚(2個)

リモートコントロールユニット(1個)

RC-RP0704

リモコン用単三乾電池 (2本)

前脚取り換え用工具(1個)
(六角レンチ)

《X-VH7(別売)に付属》

システムコントロールコード(1本)

オーディオコード(2本)

積み重ね用スペーサー(1個)

前脚取り換え用工具(1個)
(六角レンチ)

取り換え用前脚(2個)

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

この「安全上のご注意」には、当社の本機以外のオーディオ機器全般についての内容も記載しています。(説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります。)



## 絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

**⚠警告** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

**⚠注意** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 絵表示の例

△記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

お客様、または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

本製品の故障、誤動作または不具合による、テープやディスク等へ記録された内容の損害、および録音、再生など、お客様または第三者が製品利用の機会を逸したために発生した損害等、付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

# ⚠警告

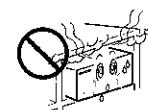




### 交流100ボルト以外の電圧で使用しない

この機器は、交流100ボルト専用です。
指定以外の電源電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

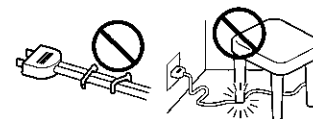
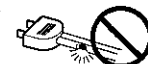
### 放熱に注意

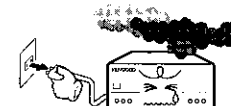
設置の際は、壁から10cm以上離してください。
機器のカバー等にある穴は、放熱のための通風孔ですので、ふさがないようにご注意ください。
- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 風通しの悪い狭い所に押し込まない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上において使用しない。

通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

### 風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

### 電源コードの取扱い

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定しないでください。また、電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら(芯線の露出、断線など)修理をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

### 異常が起きた場合は

煙が出たり、変な臭いや音がする場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

## 電源プラグは清潔に

電源プラグの刃および刃の付近に埃や金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

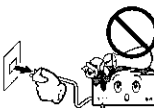
## ケースを絶対に開けないでください

機器の裏ぶた、カバーを開けたり、改造をしないでください。
内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス拠点にご依頼ください。

## 機器の内部に水や異物を入れない

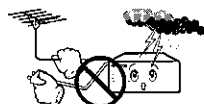
機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かないでください。
こぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に水や異物などが入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

## 落下した機器は使わない

機器を落としたり、カバーやケースがこわれた場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

## 雷が鳴り始めたら

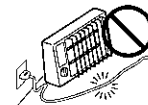
アンテナ線や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

## 電池は放置しない

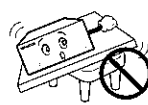
電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。ボタン電池など小型の電池は特にご注意下さい。
電池をあやまって飲み込むおそれがあります。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

## 乾電池は充電しない

乾電池は充電しないでください。
電池の破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

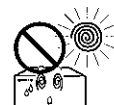
## 電源コードを熱器具に近付けない

電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近付けないでください。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

## 不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

## 湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

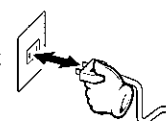
## 温度の高い場所には置かない

窓を閉めきった自動車の中や、直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

## 電源プラグの抜き差しは

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。
発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
差し込みが不完全ですと発熱したり埃が付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

### 長期間使用しないときは

旅行などで長期間、ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災の原因となることがあります。

### 指定以外のコードを使わない

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。
指定以外のコードを使用したりコードを延長すると発熱し、やけどの原因となることがあります。

### 指定機器以外の物を乗せない

この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

### アンテナ工事

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

### 機器に乗らない

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

### 指をはさまない

お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に手を入れないようご注意ください。
指がはさまれて、けがの原因となることがあります。

### レーザー光源はのぞかない

レーザー光源をのぞき込まないでください。
レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

### ひび割れディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

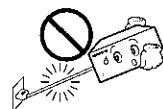




### 音量に気をつけて

はじめに音量（ボリューム）を最小にしてください。
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにしてください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

### 移動させる際は

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

### 電池の取扱い

電池は誤った使い方をすると、破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示（プラス"+"とマイナス"-"の向き）に注意し、表示通りに入れてください。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

### お手入れの際は

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電の原因となることがあります。

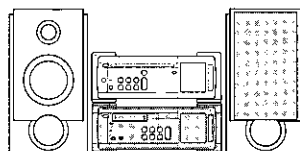
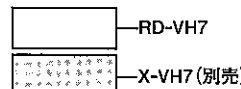
3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。もよりの販売店、またはケンウッド営業所に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

## システム構成

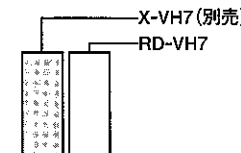
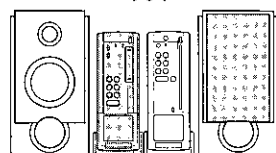
アビーノVH-7シリーズは、縦横自由に設置できます。お買い上げいただいた機器を、さまざまな組み合わせでお楽しみいただくことができます。RD-VH7を単独でお買い上げのときは、接続する機器の取扱説明書をお読みのうえ、正しく設置してください。

### VH-7システム

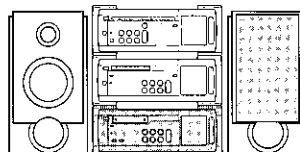
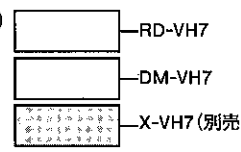
#### RD-VH7（アンプ・チューナー/CDプレーヤー）

（積み重ねて設置する場合）

積み重ねて置く場合は、付属のスペーサーを必ず使用してください。 →13

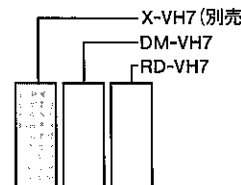
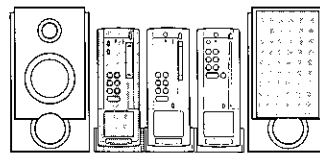
（縦置きにして設置する場合）

図のように表示部が下側になるように設置してください。
縦置きにする場合は、必ず脚の交換を行ってください。 →13

### VH-7MDシステム

#### RD-VH7, DM-VH7（アンプ・チューナー/CDプレーヤー、MDプレーヤー）

（積み重ねて設置する場合）

積み重ねて置く場合は、付属のスペーサーを必ず使用してください。 →13

（縦置きにして設置する場合）

図のように表示部が下側になるように設置してください。
縦置きにする場合は、必ず脚の交換を行ってください。 →13

**注意　設置のご注意**

過熱による火災の原因となりますのでセットの積み重ねは、上記のようにおこなってください。

- RD-VH7は放熱用のファンを内蔵していますので、一番上に設置してください。
- 設置したときの上部やRD-VH7の背面パネルの放熱孔の後ろには放熱の妨げになるものを近くに置かないでください。

- 置きかたを変える場合は、必ず本体からCD、MDまたはテープを取り出し、電源コードを抜いてから作業してください。
- CD、MDまたはテープが入った状態で本機をあやまって倒した場合、故障の原因になったりCD、MDまたはテープを傷つける恐れがありますのでご注意ください。





## 設置のしかた

横向きで積み重ねて設置する場合は、付属の積み重ね用スペーサーを使って設置してください。
また、工場出荷時に各々の本体に取り付けてある前脚を、お好みに合わせて付属の脚に取り換えることができます。

### 設置に使う付属品と設置上の注意事項

| 付属品 | 数量 |
| --- | --- |
| 取り換え用前脚 | 各2 |
| 積み重ね用スペーサー（DM-VH7,X-VH7に付属） | 各1 |
| 六角レンチ | 各1 |

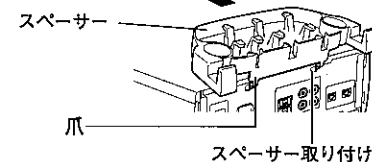
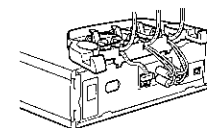
- 取り換えることができるのはいずれも前脚のみです。
- 脚の付け換え作業時は、必ず取り外したネジを使用してください。（別のネジを使うと火災や故障の原因となることがあります。）
- 作業の前に、CD、MDまたはテープを取り出し、電源コードを抜いてください。

### 置きかたを変更する

**積み重ねて設置する**

付属の積み重ね用スペーサーを使って設置します。

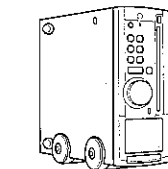
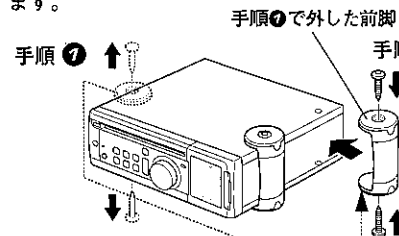
❶DM-VH7/X-VH7の背面の取り付け穴にスペーサーの爪を合わせて差し込みます。

注意　差し込む時、スペーサーを図のようにやや傾けて（20°程度）取り付け穴に合わせて差し込んでください。

❷コードをスペーサーに巻き付けて整理する
図のようにスペーサーの溝にオーディオコード、システムコントロールコードを巻き付けて整理することができます。

❸上部の機器の脚をスペーサーの脚受の凹に合わせて重ねます。

**縦置きにして設置する**

下記に従って脚の取り付け位置を変更します。

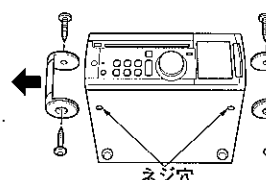
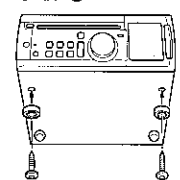
❶正面向かって左側の前脚のネジ2本を六角レンチを使って取り外します。

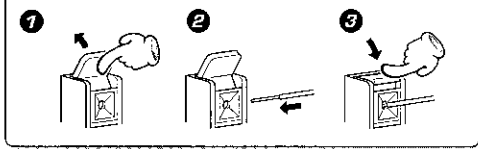
❷外した前脚を右側面の後方にあるネジ穴に合わせて手順❶で取り外したネジを使って取り付けます。

セットを立てた状態

### 付属の脚と交換する

お好みにより付属の前脚と交換することができます。

❶前脚のネジ4本を六角レンチを使って取り外します。

❷付属の取り換え用前脚を取り付ける。
このとき手順❶で取り外したネジを使って取り付けます。

## 1. アンテナの接続

アンテナは、図のように接続します。
接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

### 注意 屋外アンテナ設置上のご注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

### 付属アンテナの接続

#### AMループアンテナ

付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで、受信状態の一番よい方向に向けます。

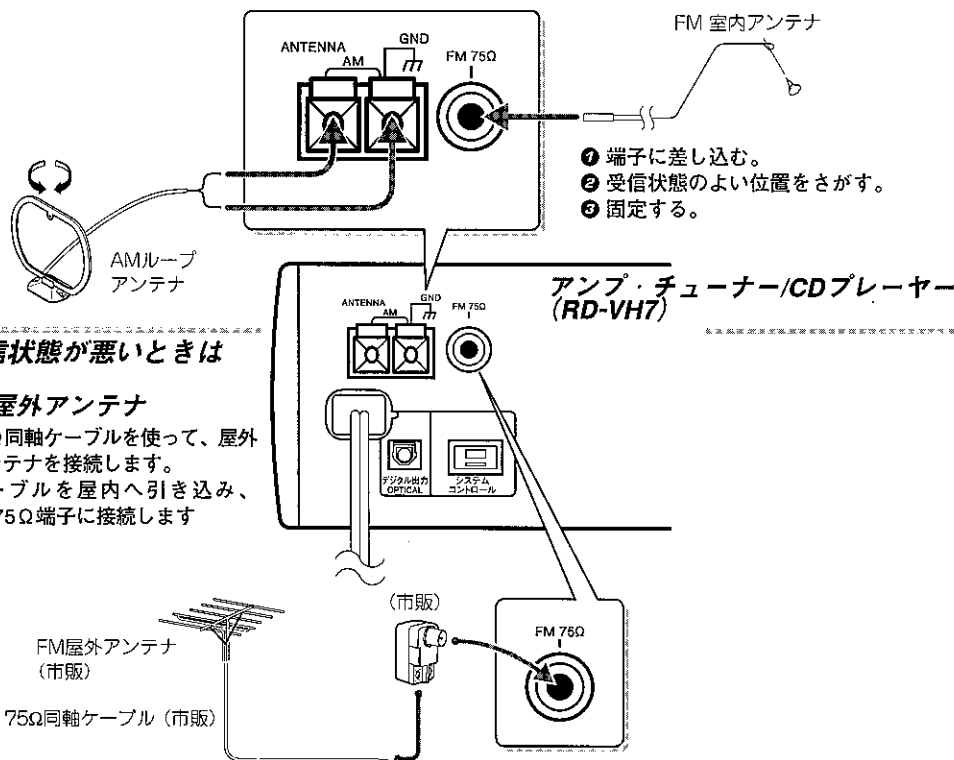
#### FM室内アンテナ

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナ(市販)の接続をお勧めします。

❶ 端子に差し込む。
❷ 受信状態のよい位置をさがす。
❸ 固定する。

### 受信状態が悪いときは

#### FM屋外アンテナ

75Ω同軸ケーブルを使って、屋外アンテナを接続します。
ケーブルを屋内へ引き込み、FM75Ω端子に接続します







## 2. オーディオコードの接続

ここでは、システム接続することを考慮して、別売の機器の接続もあわせて説明しています。お買い上げの機器に合わせて正しく設置し、必要なコードを接続してください。

### マイコンの誤動作について

正しく接続したのに動作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、"故障と思われる症状ですが…" を参照してマイコンをリセットしてください。 →58

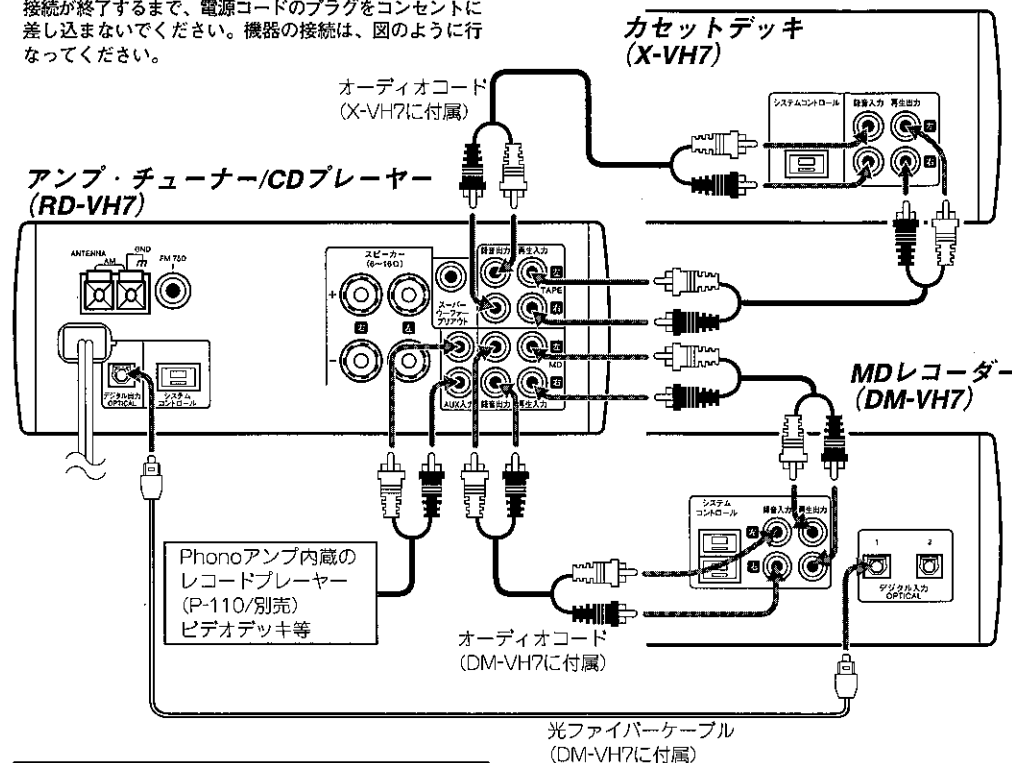
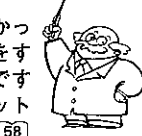
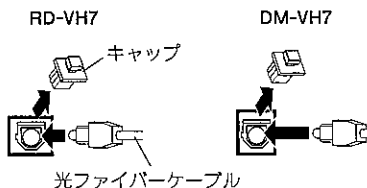
### 接続のご注意

接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。機器の接続は、図のように行なってください。

### 光ファイバーケーブルの接続について

RD-VH7　DM-VH7

キャップ

光ファイバーケーブル

デジタル接続に使用します。デジタル伝送により、CDの高音質を損なうことなく録音できます。

必要に応じて、キャップをはずし、光ファイバーケーブルを接続してください。

1. 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も、合わせてご覧ください。
2. 光ファイバーは真っ直ぐに、カチッと音がするまで差し込んでください。
3. デジタル端子を使わないときは、必ず保護キャップを付けておいてください。
4. 光ファイバーケーブルは、絶対に折り曲げたり、束ねたりしないでください。

# 3. システムコントロールコードと電源コードの接続

システムコントロールコードと電源コードは、図のように接続します。

**接続のご注意**

接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。機器の接続は、図のように行なってください。

### システムコントロールコードの接続

コネクターを差し込む

カチッと音がするまで平行に差し込みむとロックされます

コネクターを抜く

コネクター部分の両端を押しながらロックを解除し、まっすぐに引き抜く

### 警告 ACコンセント

背面のACコンセントが供給できる電力は各機器ともに100Wまでです。接続する装置の消費電力の合計が100Wを超えないようにしてください。火災の原因になります。
電熱器具、ヘヤドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。
また、供給電力以内であっても、テレビなど電源を入れたときに大電流が流れる機器は使用しないでください。

1. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音がでなくなったり、雑音が発生することがあります。
2. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜かずに接続コードの抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因となります。



# 4. スピーカーの接続

スピーカーは、図のように接続します。
接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

- スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。保護回路が働き、音が出なくなります。
- 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりしない、不自然な音になります。正しく接続してください。

スーパーウーファー(SW-10)(別売)
重低音を力強く再生します。

# 本体部

## アンプ・チューナー/CDプレーヤー (RD-VH7)

## カセットデッキ (X-VH7)

KENWOOD auto reverse cassette deck X-VH7
eject
tape loading mechanism
recording
standby
rev.mode
Dolby NR
crls
rec arm
pause
stop
fwd
rev
function indicator
Dolby NR B-type C-type
direction reverse forward
rev mode crls pause
I/⏻ on/standby

準備編

### スタンバイ状態について

本機のスタンバイインジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このとき、リモコンで本機をオンできます。



## アンプ・チューナー/CDプレーヤー (RD-VH7)

❶ディスク取出しキー("▲ eject")
青く点灯しているときは、ディスクが挿入されている状態です。

❷"standby/timer"インジケーター →50, →53
電源オンのとき :消灯
電源オフのとき(スタンバイ状態) :赤色の点灯
タイマースタンバイ状態 :緑色の点灯

❸リモコン受光部

❹"phones"端子 →25
ステレオミニプラグのヘッドホン(別売)を接続します。

❺"auto/mono,demo"キー
DEMOモードのオン/オフに使います。 →5
放送受信中に選局モードの切り換えに使います。 →39

❻"band"キー
電源オンのとき :入力がチューナーに切り換わります。 →36, →38, →39
電源オフのとき :システム電源をオンにして、放送の受信を行います。 →24
放送受信中のとき:放送バンドを切り換えます。 →38, →39

❼"tuning ◀◀ ▶▶ "キー
CD再生中のとき :再生中の曲の早送り、早戻しに使います。 →29
放送受信中のとき :放送局の選択に使います。 →39

❽"p.call |◀◀ ▶▶| "キー
CD再生中のとき :再生中の曲のスキップに使います。 →29
放送受信中のとき :プリセットした放送局の選択に使います。 →38

❾"■ stop"キー
電源オフのとき :5秒間の時計表示をします。 →23
CD再生中のとき :再生を停止します。 →29
放送受信中のとき:放送局名を切り換えます。 →36

❿"enter, ▶/II"キー
各種モード設定中:実行キーとして使います。
電源オフのとき :システム電源をオンにして、CDの再生を行います。 →24
CD入力のとき :再生/一時停止に使います。 →29

⓫"multi control"つまみ →23, →24, →27, →50
通常は、音量の調節に使います。また、各種設定の選択、タイマー予約、時刻合わせにも使います。

⓬文字情報、キャラクター表示部

⓭"I/⏻ on/standby"キー →24, →50, →53
電源のオン/オフ(スタンバイ)を切り換えます。システム接続しているときは、システム全体の電源のオン/オフを切り換えます。

⓮"mode"キー →23, →26, →27
各種の設定選択モードに入ります。

⓯CD挿入口

⓰"input"キー →24, →44
入力ソースを切り換えます。
TAPE、CD、MDを選んだとき、すでにテープやディスクがセットされていれば、自動的に再生が始まります。

準備編

## カセットデッキ (X-VH7)

❶テープ取出しキー("▲ eject") →40
青く点灯しているときは、カセットが挿入されている状態です。

❷"recording"インジケーター →45

❸"standby"インジケーター
電源オンのとき :消灯
電源オフのとき(スタンバイ状態) :赤色の点灯

❹"rev. mode"キー →41, →45
デッキのリバースモード(両面、片面)を切り換えます。

❺"Dolby NR"キー →41, →45
ドルビーノイズリダクションのオン/オフとタイプを切り換えます。

❻"crls"キー →46
録音する音楽ソースに合わせて、録音レベルを自動設定します。

❼"● rec/arm"キー →45
録音を始めます。録音中に押すと、約4秒間の無音部分(アキ)を作ってから停止します。

❽"◀◀ ▶▶ "キー →41 〜 →43
曲の早送り、巻き戻しに使います。

❾"II pause"キー →41, →45
再生、録音中の曲の一時停止をします。

❿"■ stop"キー →41, →45, →47 〜 →49
動作を停止します。

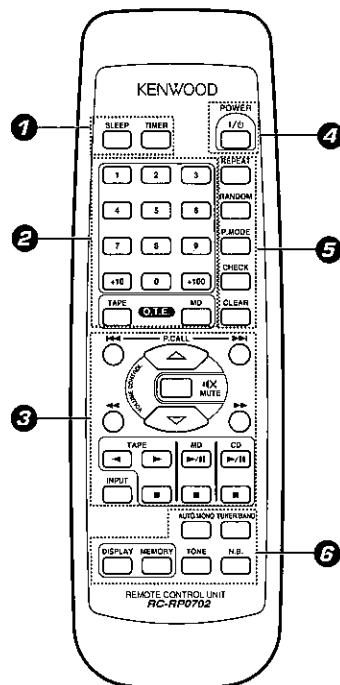
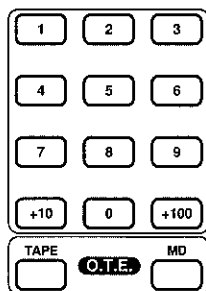
⓫"◀ rev, ▶ fwd "キー →40, →44
カセットテープの再生をします。
電源オフのとき:システム接続している時は、システムの電源がオンになり、TAPEの再生を行います。

⓬"function indicator" (再生・録音状態等の表示) →40 〜 →46
ドルビーモード、再生方向、リバースモード等が表示されます。

⓭"I/⏻ on/standby"キー
電源のオン/オフ(スタンバイ)を切り換えます。
システム接続していて、電源がオフの時にこのキーを押すとシステム全体の電源をオンにします。

⓮テープ挿入口

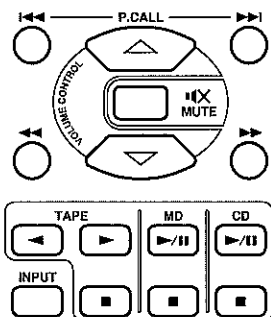
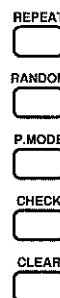
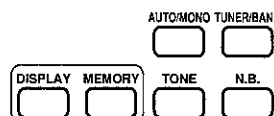
# リモコン部

機器間をシステムコントロールコードで接続すると、本リモコンでシステム全体を操作できます。
本体部と同じ名前のキーは、本体部と同じ働きをします。

型名:RC-RP0702
赤外線方式

❸基本操作/
入力切り換え関連キー

❻チューナー操作/
音質調整、表示切り換え関連キー

AUTO/MONO TUNER/BAND
DISPLAY MEMORY TONE N.B.

準備編



## ❶ タイマー関連キー

"SLEEP"キー →63
スリープタイマーを設定するときに使います。
"TIMER"キー →51, →54
タイマーの実行、解除するときに使います。

## ❷ 数字/O.T.E.キー

数字キー
CD,MD入力のとき：数字キーとして使います。 →29
放送受信中のとき：プリセットした放送局を呼び出します。 →38
"O.T.E."キー
好きな曲順に並べ換えるプログラム録音等にも使います。 →47
CDの再生中に押すと、そのとき再生している曲だけをテープまたはMDへ録音します。 →48
停止中に押すと、CDを1曲目から録音します。 →49

## ❸ 基本操作/入力切り換え関連キー

"⏮, ⏭"キー
CD,MD入力のとき：再生中の曲のスキップに使います。 →29
放送受信中のとき：プリセットした放送局の選択に使います。 →38
"◀◀, ▶▶"キー
CD,MD再生中のとき：再生中の曲の早送り、早戻しに使います。 →29
放送受信中のとき：放送局の選択に使います。→39
TAPE入力のとき：曲の早送り、巻き戻しに使います。 →41
"VOLUME CONTROL"キー
音量の調整・音質の調整に使います。 →24, →25
MD操作キー（▶/II ,■）
MDレコーダー(DM-VH7)を操作するときに使います。
CD操作キー（▶/II ,■）
→29, →31, →32, →34, →35
CDプレーヤーを操作するときに使います。
カセットデッキ操作キー（◀ ,▶ ,■）
→40, →41, →44, →45
カセットデッキ(X-VH7)を操作するときに使います。
"MUTE"キー →25
一時的に音を消すときに使用します。
"INPUT"キー →24, →44
入力ソースを切り換えます。
TAPE、CD、MDを選んだとき、すでにテープやディスクがセットされていれば、自動的に再生が始まります。

## ❹ POWERキー

"I/⏻ POWER"キー →24, →50, →53
アンプ・チューナー/CDプレーヤー(RD-VH7)の電源のオン/オフ(スタンバイ)を切り換えます。システム接続しているときは、システム全体の電源のオン/オフを切り換えます。タイマーの設定にも使います。

## ❺ CD再生モード/プログラム関連キー

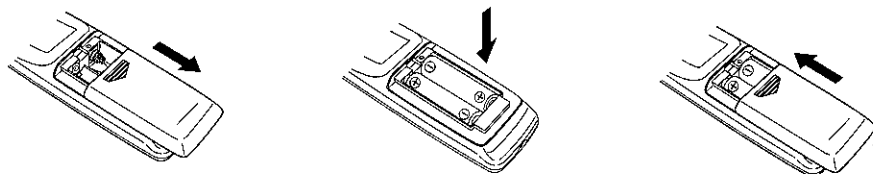
"REPEAT"キー →34
CDのリピート再生に使います。
"RANDOM"キー →35
CDの曲がランダム(順不同)に再生されます。
"P.MODE"キー →32, →33
CDの再生、録音の曲順をプログラムするときに使います。
"CHECK"キー →33
CDのプログラム内容のチェックに使います。
"CLEAR"キー →33, →47
CDのプログラム内容を最後から1曲ずつ消去します。

## ❻ チューナー操作/音質調整、表示切り換え関連キー

"AUTO/MONO"キー →39
チューナーの選局モードの切り換えに使います。
"TUNER/BAND"キー →39
入力をチューナーに切り換えます。
放送バンドを切り換えます。
"MEMORY"キー →36, →39
放送局のプリセットに使います。
"TONE"キー →25
高音、低音の調整に使います。
"N.B."キー →25
音質の補正に使います。
"DISPLAY"キー →30, →39
アンプ・チューナー/CDプレーヤー(RD-VH7)の表示を切り換えます。

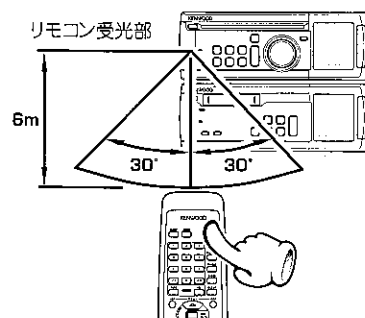
準備編

### 電池の入れかた

❶ カバーを開く　❷ 電池を入れる　❸カバーを閉める

● 単三乾電池2個を極性マークに従って入れる。

### 操作のしかた

電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンの"I/⏻ POWER"キーを押すと、電源がオンになります。電源がオン になったら、操作したいキーを押します。

操作範囲のめやす



● リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

メモ
1. 付属の乾電池は動作チェック用のため、寿命が短いことがありますのでご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、2個とも新しい電池と交換してください。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯(インバーター方式等)の蛍光灯の光が当ると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。



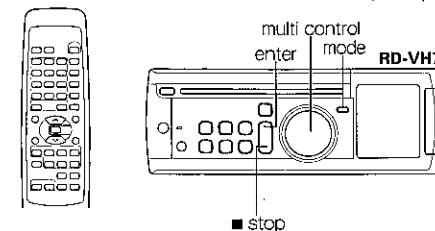




本機には、時計機能がついています。タイマー機能を使う前に必ず正確な時刻を合わせてください。

本体のみ

### 電源オフのとき：

"■ stop"キーを押すと5秒間だけ時計表示します。

## 1 時刻合わせモードにする

❶"mode"キーを押す

❷"multi control"つまみを回して"ADJUST ?"を選び"enter"キーを押す

❷ "ADJUST ?"を選ぶ

● 時間表示が点滅を始めます。

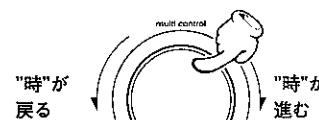
## 2 時間を合わせる

❶"multi control"つまみを回して"時"を合わせる

❶ 時を調整

午後12時30分に合わせる例

❷"enter"キーを押す

● 時刻は12時間表示で表示されます。
● "enter"キーを押すと時間が設定されて、分表示が点滅します。

## 3 分を合わせる

❶"multi control"つまみを回して"分"を合わせる

❶ 分を調整

❷"enter"キーを押す

● 間違えて押したときは、"mode"キーを押して最初からやり直してください。
● 時報と同時に"enter"キーを押すと正確な時刻表示ができます。
● 停電があったり、電源プラグをコンセントから抜いたときは、時刻表示が点滅します。その場合は、もう一度時刻合わせをしてください。

RD-VH7/X-VH7 (JA)

基本操作編

## 1. 電源をオンにする(オフにする)

"I/⏻ on/standby"キーを押す

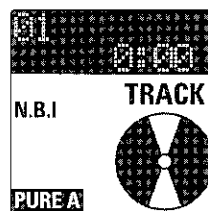
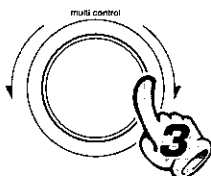
電源がオンのときに"I/⏻ on/standby"キーを押すとオフになります。

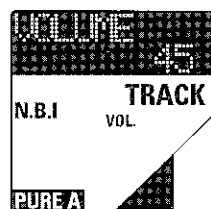
- システム全体のオン/オフができます。リモコンの"I/⏻ POWER"キーも、同じ働きをします。
- 電源がオフのとき本体のCD (▶/II)、MD (▶/II)、tape (◀ ▶)キーまたは、チューナー("band") キーを押すと、電源がオンになり、その入力に切り換わり再生(受信)状態になります。(ワンタッチオペレーション機能)

## 2. 聴きたいものを選ぶ

- TUNER(ラジオ放送) →36
- CD →28
- MD
- TAPE →40
- AUX

- CD、TAPE、MDを選んだとき、すでにディスクやテープが入っている場合は、再生が始まります。

CDを選んだとき

## 3. 音量を調節する

音量の表示

- リモコンの"VOLUME CONTROL"キーでも同様の操作ができます。
- 表示部に目安の数字を表示します。

RD-VH7/X-VH7 (JA)

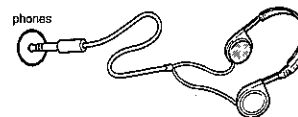
### 一時的に音を消す

リモコンのみ

点滅

- もう一度押すと、元の音量に戻ります。
- 音量を操作したときも解除されます。

### ヘッドホンで聴く

❶ ヘッドホンのプラグを"phones"端子に差し込む

- ステレオミニプラグ付きのヘッドホンを使用します。
- スピーカーから音が出なくなります。

❷ "multi control"つまみで音量を調節する

### 音質の調整 (リモコンのみ)

低音(BASS)、高音(TREBLE)の調整ができます。
調整をした場合はN.B.効果は解除されます。

❶"TONE"キーを押して"BASS"の設定にする。"VOLUME CONTROL"キーでお好みのレベルを設定してください。

❷"TONE"キーを押すと"TREBLE"の設定になります。"VOLUME CONTROL"キーでレベルを設定してください。

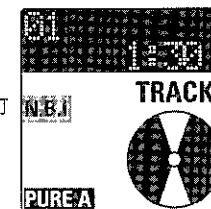
❸"TONE"キーを押す

TONE調整をした時に点灯

- BASS、TREBLEともに+8 ～ −8の範囲で調節できます。

### 低音と高音を補正する(N.B. : Natural Bass circuit)

リモコンのみ

点灯

押すたびに表示が切り換わります。

① "N.B.1" ....... 音量にあわせて高音域と低音域を補正(小音量時に有効です)
② "N.B.2" ....... 音量にかかわらず高音域と低音域を補正
③ "TONE"または消灯 ................ 音質調整してある場合は"TONE"と表示します
音質調整していない場合は何も表示しません

### バランスの調整

左右のスピーカーの音量バランスを調整します。

❶"mode"キーを押す

❷"multi control"つまみを回して"BALANCE SET?"を選び"enter"キーを押す

点滅

❸"multi control"つまみを回して、左右のバランスを調整する。

❹"enter"キーを押す

基本操作編

### インプットレベルの調整

MD、TAPEまたはAUXの入力レベルを調整します。
(入力を切り換えたときの入力レベルの差を一定にします。)

multi control
mode
RD-VH7
enter

MD (TAPE、AUX) 入力時

❶"input"キーを押して調整したい入力ソースにする

❷"mode"キーを押す

❸"multi control"つまみを回して"MD LEVEL SET?"("TAPE LEVEL SET?"、"AUX LEVEL SET?")を選び"enter"キーを押す

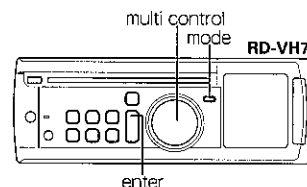
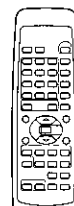
点滅

❹"multi control"つまみを回して、入力レベルを調整する

MD INPUT
+3

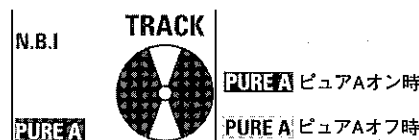
- −6 〜 +3の範囲でまで調整できます。

❺"enter"キーを押す

- インプットレベルを調整すると、調整された機器の録音レベルも変化します。

## ピュアAモードについて

ピュアAモードは聴いている音量によって自動的にオン/オフされます。
セットのそばで聴くときや、夜間など小音量で聴くときに、滑らかな高音質でお楽しみいただけます。

PURE A ピュアAオン時

PURE A ピュアAオフ時

**注意**

ピュアAモードのときは、音楽ソースを再生していないときにも常に一定の電力が消費されているので、アンプ部の温度が高くなります。

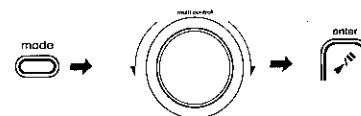
***ピュアAとは***

アンプ部は、CDなどから入ってくる音の信号の電圧と電流を増幅し、スピーカーに送るはたらきをしています。この電流を増幅するときに発生するひずみを抑えるため、A級動作またはAB級動作と呼ばれるアンプでは、電流を増幅する回路部に常に電流が流れています。これをアイドリング電流といいます。特にA級動作アンプでは、多くの機器で採用されているAB級動作アンプに比べて多くのアイドリング電流が流れています。この結果、なめらかな高音質の再生が可能になります。しかし一方では、音楽ソースを再生していないときにも、常に一定の電力が消費されているので、アンプ部の温度が比較的高くなります。このためA級動作の音質を楽しむには、大容量の電源を持つ高級アンプが必要でした。
本機は通常のモードではAB級動作アンプですが、手軽にA級動作アンプの高音質をお楽しみいただくために、小音量で聴くときに使用できるA級動作のモード(ピュアA)とAB級動作を音量に合わせて自動的に切り換わる様に設定されています。

基本操作編



### 表示部のコントラストの調整について

アンプ･チューナー/CDプレーヤーの表示部のコントラストをお好みによって切り換えることができます。

液晶表示部が見えない(コントラストが明るい)場合には、"mode"キーを2秒以上押してください。コントラストが初期設定値になります。

❶"mode"キーを押す
❷"multi control"つまみを回して"CONTRAST SET ?"を選び"enter"キーを押す

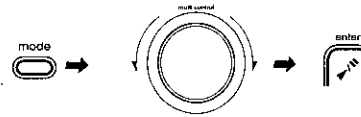
CONTRAST
SET

点滅

❸"multi control"つまみを回してお好みの明るさ(色の濃さ)を選び"enter"キーを押す

- 本機を設置した場所、周辺の気温等で表示が見えにくい場合に調整してください。

### 表示部の方向調整について

アンプ･チューナー/CDプレーヤーの表示部を横置き・縦置きの場合に、自動的に切り換える(AUTO)、お好みによって切り換える(MANUAL)を選ぶことができます。

表示方向を変更する場合:
❶〜❸の手順にしたがって再度設定しなおしてください。

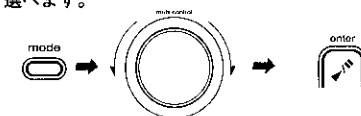
❶"mode"キーを押す
❷"multi control"つまみを回して"WINDOW SET ?"を選び"enter"キーを押す

点滅

❸"multi control"つまみを回して"AUTO"または"MANUAL"を選び"enter"キーを押す

- "MANUAL"を選んで表示方向を変える場合は、"CHANGE ?"が点灯中に"multi control"つまみを回して、お好みの表示方向を選び"enter"キーを押してください。

### オートパワーセーブ機能について (Auto Power Save= A.P.S.)

電源がオンで、録音も再生もしていない状態のとき、約30分以上放置すると自動的に電源がオフ(スタンバイ)になる機能です。この機能は、次の操作で、使う/使わないを選べます。

❶"mode"キーを押す
❷"multi control"つまみを回して"A.P.S. SET ?"を選び"enter"キーを押す

点滅

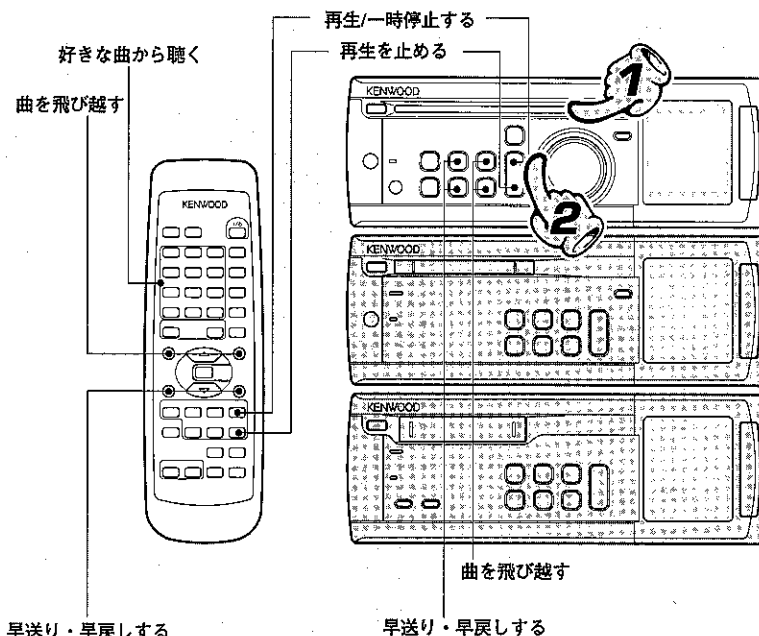
❸"multi control"つまみを回して、"ON"または"OFF"を選び、"enter"キーを押す

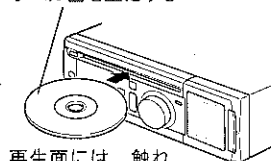
点灯

- TUNER、AUXの時は音量がゼロの時に限り働きます。
- この機能が働いている時は、表示部に"A.P.S."の表示がされます。

基本操作編

再生/一時停止する
再生を止める
好きな曲から聴く
曲を飛び越す
曲を飛び越す
早送り・早戻しする
早送り・早戻しする

C D 操作編

## 1. ディスクの挿入/排出

ラベル面を上にする

再生面には、触れないでください。

ディスクを挿入口に差し込むと自動的に本体へ収納されます。

ディスクを取り出すときは"▲ eject"キーを押してください。

本機からCDを取り出すときはまっすぐに引き出してください。ななめに引き出すとCDの再生面を傷つける原因となります。

- 8cmCDを使用する際にアダプターは必要ありません。
- ディスクによって(透明なディスク等)、一度で排出できない場合は、そのまま"▲ eject"キーを押し続けてください。
またスムーズにディスクが挿入できない時は、軽く押し込むようにすると自動的に挿入されます。

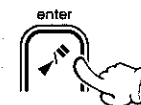
ディスクの挿入または、排出中に停止状態になった時は、"PLEASE PUSH EJECT KEY or PLAY KEY"と表示され、"▲ eject"キーが点滅します。このときは"▲ eject"キーを押してディスクを取り出してください。

●"▲ eject"キーを押すと一旦挿入された後に排出し、"▶/II" キーを押すと、挿入され再生が始まります。

### 注意

変型CD(星型、ハート型等)、ひび割れがある、大きくそったディスク、ディスク保護のためのスタビライザー等は、ご使用にならないでください。故障の原因となります。 →55




### 一時停止する

- 押すたびに、一時停止と再生が切り換わります。

### 再生を止める

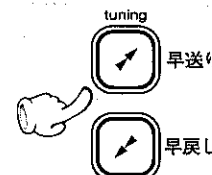
### 好きな曲から聴く

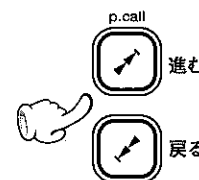
リモコンのみ

曲を選ぶ

1 2 3
4 5 6
7 8 9
+10 0 +100

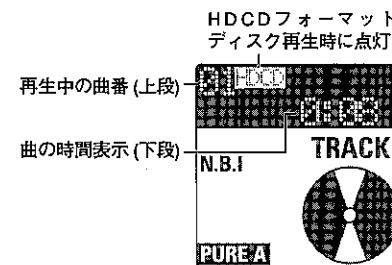
数字キーを押す順序は
12曲目なら …………… +10 2
20曲目なら …………… +10 +10 0

### 早送り・早戻しする

- 手を離したところから再生します。

### 曲を飛び越す

- 押した方向に飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。
- 再生中に"|◀◀" キーを押すと、その曲の最初に戻ります。
- さらに手前の曲にスキップするときは素早く"|◀◀" キー を押します。

C D 操作編

## 2. 再生をはじめる

HDCDフォーマットディスク再生時に点灯
再生中の曲番(上段)
曲の時間表示(下段)

- 数秒後に1曲目から再生します。

本機は、HDCDディスクも再生することができます。HDCDディスクを再生すると表示部に"HDCD"の表示が点灯します。

- HDCDフォーマットで記録された音楽情報は、20 bitの高い分解性能を持っており、通常のCD再生時に比べ、よりきめの細かい音楽を楽しむことができます。

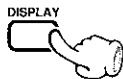
### CDプレーヤーの時間表示について(リモコンのみ)

"DISPLAY"キーを押すたびにディスプレイの表示が切り換わります。

- CDテキスト情報表示(対応ディスクのみ)

- 再生中の曲の経過時間

- 再生中の曲の残り時間

- ディスク全体の経過時間

- ディスク全体の残り時間

- 1曲リピート再生とランダム再生モードでは、再生中の曲の表示のみです。
- プログラム再生などで、トータル100分以上になると"- - - : - -T"と表示され時間表示ができません。

**CD TEXT 機能について**

CD テキスト(タイトル名や曲名、アーチストなどの情報)が記録されているディスクを入れたときはディスプレイにテキスト情報が表示されます。
表示できる文字数は1000文字までです。それ以上は"TEXT MEMORY FULL"と表示されます。

CD操作編

### HDCDモード(HDCD 20bit デジタルアウトプット)について

このモードはHDCDディスクに記録された音楽信号を20bitに変換してデジタル出力する特別な機能です。これはHDCDディスクからMDなどのデジタル機器に録音する場合に最も有効的です。

- HDCDを変換する機能をもつ他の機器と接続して使用する場合にはデジタルアウトの設定を"non-HDCD"にします。
- HDCDを選んで他の機器で録音又は再生した場合に正しい音楽信号で録音、再生できない事があります。



## HDCDを録音する場合

HDCDフォーマットされたCDのデジタル録音ができます。HDCDディスクの情報をHDCDデコードした20 bitで出力するか、通常のCDと同様の16 bitで出力するかを選択します。(HDCD 20ビットデジタルアウトプット →30)

| 選択モード | 通常CD | HDCD |
|---|---|---|
| non-HDCD | 16 bit | 16 bit |
| HDCD | 16 bit | 20 bit |

入力切換を"CD"にする

### 1 停止を確認する

**再生中のとき**
"■ stop"キーを押す

HDCD収録ディスクの中には全ての曲がHDCDで収録されていないものがあります。
(HDCDで収録されていない曲は"HDCD"の表示は点灯しません。)

### 2 HDCD選択モードにする

❶"mode"キーを押す

❷"multi control"つまみを回して"HDCD D-OUT SET?"を選んで"enter"キーを押す

❸"multi control"つまみを回して"non-HDCD"か"HDCD"を選んで"enter"キーを押す

- non-HDCD(初期設定)
- HDCD

- この選択は、デジタル出力だけの選択です。再生時は自動的にCD、HDCDの各モードを再生します。
- スピーカーからの再生音量はCD、HDCDともに同じになります。

❷ モード選択

点滅

❸ HDCD選択

HDCD D-OUT HDCD

点滅

### 3 録音を開始する

(本機に接続してある録音機器の取扱説明書により操作してください)

CD操作編

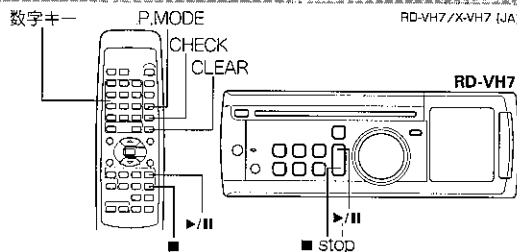
#### "non-HDCD"モードを選んだ時:

HDCDディスクの情報を通常のフォーマットと同様のフォーマット(16 bit)で出力をします。
HDCDフォーマットのCDと通常のCDを1枚に録音した場合、両方とも同じ録音レベルで録音されます。
ただしHDCDフォーマット(20 bit)録音はできません。

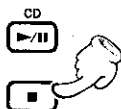
#### "HDCD"モードを選んだ時:

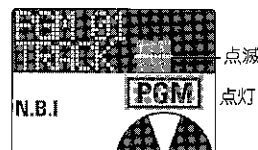
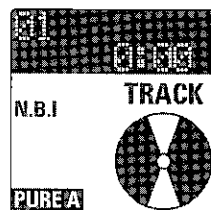
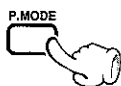
HDCDフォーマットのCDをそのままMDに録音するときに選びます。よりダイナミックレンジの広いきめ細かな音質で録音されます。
ただしHDCDフォーマットの録音レベルは、通常のCD録音レベルより低く録音されることがあります。

# 曲順を並べ換えて聴く
## (プログラム再生)

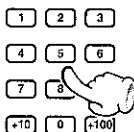
ディスクの中から好きな曲を、好きな曲順で聴くことができます。(最大32曲まで)

入力切換を"CD"にする

### 1 停止を確認する

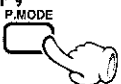
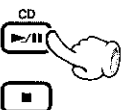
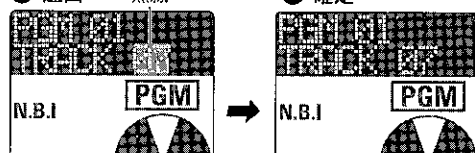
再生中のとき
"■ stop"キーを押す

### 2 "PGM"表示を点灯させる

"P.MODE"キーを押す

### 3 聴きたい順に曲を選ぶ

❶数字キーで曲番号を選ぶ

8秒以内に手順❷を行う

数字キーを押す順序は
12曲目なら ........... +10 2
20曲目なら ........... +10 +10 0

❷"P.MODE"キーを押す

❸手順❶、❷を繰り返す

- 32曲まで選べます。"PGM FULL"と表示されると、それ以上プログラムは受け付けません。
- プログラム終了後、"CHECK"キーを押すごとに内容を確認することができます。
- CD TEXTが記録されているディスクの場合は、テキストがスクロール表示されます。

### 4 再生する

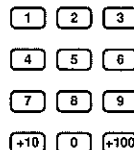
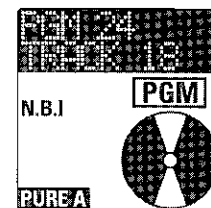
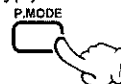
"CD ►/II"キーを押す

- 選んだ順(P-番号順)に再生します。
- 再生中に ◄◄ または ►► キーを押すと、前後のプログラム曲へ飛び越します。
- 再生中に ◄◄ キーを一回押すと、その曲の最初に戻ります。



### 曲を追加するには (リモコンのみ)

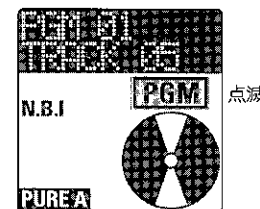
❶数字キーで追加したい曲番号を選ぶ

停止中に押す

数字キーを押す順序は
12曲目なら ........... +10 2
20曲目なら ........... +10 +10 0

❷"P.MODE"キーを押す

- 32曲まで選べます。"PGM FULL"と表示されると、それ以上プログラムは受け付けません。
- 追加したい曲番号を選ぶとプログラムの最後に追加されます。

### プログラムした曲を変更するには (リモコンのみ)

❶"CHECK"キーを押して変更したいプログラム番号を選ぶ

❷数字キーで新しい曲番号を選ぶ

❸"P.MODE"キーを押す

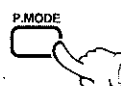
- 再生中の曲は変更できません。

### プログラムした曲を取り消すには (リモコンのみ)

"CLEAR"キーを押す

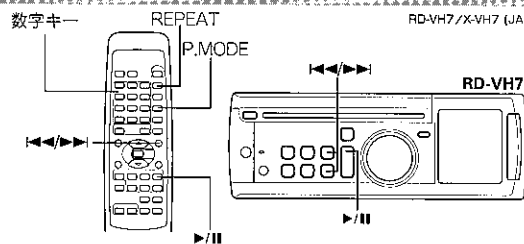
- "CLEAR"キーを押すたびに、最後の曲から1曲ずつ消えていきます。
- 再生中の曲は取り消せません。

### プログラムを解除するには (リモコンのみ)

"P.MODE"キーを押す

- 再生中は、そのとき聴いている曲から曲番号順の再生に戻ります。

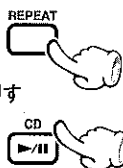
CD操作編

# 繰り返し聴く（リピート再生）

お気に入りの曲やディスクを繰り返し聴くことができます。

入力切換を"CD"にする

## 一枚のディスクを繰り返し聴く

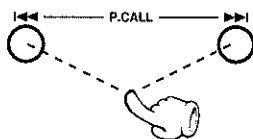
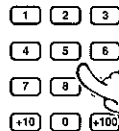
❶"PGM"表示が点灯しているときは、"P.MODE"キーを押して消灯させてください。

❷"REPEAT"キーを繰り返し押して"ALL REP."を選ぶ

❸"CD ►/II"キーを押す

❸ "ALL REP." 点灯

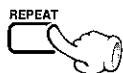
## 1曲だけを繰り返し聴く

❶"PGM"表示が点灯しているときは、"P.MODE"キーを押して消灯させてください。

❷数字キーまたは⏮/⏭で聴きたい曲番号を選ぶとCDが再生します。

数字キーを押す順序は
12曲目なら ........... +10 2
20曲目なら ........... +10 +10 0

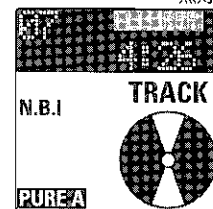
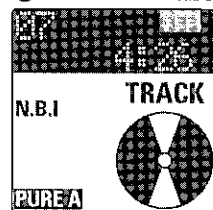
❸CDが再生中に"REPEAT"キーを繰り返し押して"REP."を選ぶ

❸ "REP." 点灯

TRACK
N.B.I
PURE A

## 選んだ曲だけを繰り返し聴く

❶"曲順を並べ替えて聴く（プログラム再生）"の手順❸までを行い、聴きたい曲をプログラムする →32

❷"REPEAT"キー押して"REP."を選ぶ

❸"CD ►/II"キーを押す

## リピート再生をやめるには

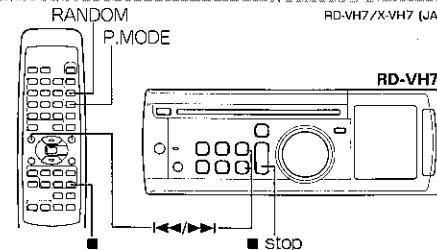
"REPEAT"キーを表示が消えるまで繰り返し押す

- "REPEAT"表示が消灯しても再生を続けます。

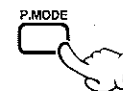
CD操作編



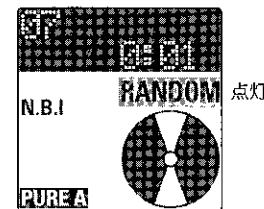
# 曲順を順不同に楽しむ（ランダム再生）

毎回曲がランダムに選択されるので、飽きることなく楽しめます。

入力切換を"CD"にする

## 1 "PGM"の消灯を確認する

"PGM"表示が点灯しているときは、"P.MODE"キーを押して消灯させてください。

## 2 ランダム再生を始める

"RANDOM"キーを押す

点灯

- 全曲の再生が1回終わると停止します。
- "REPEAT"キーを押すと、ランダム再生が繰り返されます。

## 曲の途中で別の曲を選ぶには

"⏭"キーを押す

- ⏮キーを1回押すと、再生している曲の初めに戻ります。

## ランダム再生をやめるには

再生中に"RANDOM"または"■ stop"キーを押す

または
- "RANDOM"キーを押すと曲番号順の再生に戻ります。"■ stop"キーを押すと停止状態になります。

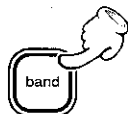
CD操作編

## 放送局をオートプリセット(記憶)する (FM/AM)

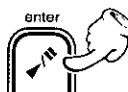
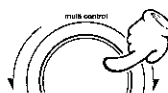
お住まいの都道府県名を設定すると、お住まいの近くで受信できる放送局が自動的にプリセット(記憶)されます。これらの 放送局を受信すると、放送局名を(FM 放送のみ)表示します。 (エリア別放送局名リスト自動表示→37)

オートプリセットはFMおよびAMの放送局をあわせて、最大40局まで登録します。
放送局名表示は"エリア別FM放送局名自動表示リスト"に載っているFM放送局のみに対応しています。

❶"band(バンド)"キーを押して入力をチューナーにする

❷"mode(モード)"キーを押す

❸"multi(マルチ) control(コントロール)"つまみを回して"エリアコール?"を選び"enter(エンター)"キーを押す

点滅
エリア コール

- 現在選択されている都道府県名が表示されます。
- 都道府県名を設定していない場合は、"ミセッテイ" と表示されます。

❹"multi control"つまみを回して、お住まいの都道府県名を選ぶ

エリア コール
トウキョウ ?
"トウキョウ"を選択したとき

- 都道府県名は、アイウエオ順に並んでいます。
- 都道府県名を設定したときは、"エリア別FM放送局名自動表示リスト"に従ってオートプリセットされます。

❺"enter"キーを押す

AUTO PRESET
点滅

- "AUTO PRESET(オートプリセット)"表示が点滅して順次FM局をメモリーして、次にAM局をメモリーします。
- リスト以外の放送局は、マニュアルプリセットしてください。

### 希望の放送局名が表示されないとき

放送地域によっては、周波数が同じでも放送局名が違う場合があります。希望する放送局名が表示されていないときは、"■ stop(ストップ)"キーを押すと放送局名を変えることができます。

- 受信中の周波数の放送局名が設定されていない場合、および"受信表示(〉〉〈〈)"が点灯していない場合は、放送局名は表示しません。 →38
- オートプリセットが終ると、一番最初にオートプリセットした放送局名が表示されます。



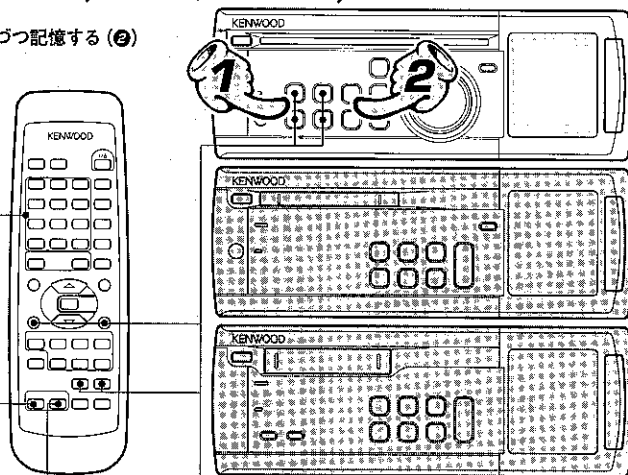
## エリア別FM放送局名自動表示リスト

1999年 4月現在

| 地域 | 放送局 | 表示名 |
|---|---|---|
| 全国ネット | NHK-FM | NHK-FM |
| 北海道地方 | エフエム北海道 | AIR-G' |
| | エフエム・ノースウェーブ | north wave |
| 東北地方 | エフエム青森 | FMアオモリ |
| | エフエム岩手 | FMイワテ |
| | エフエム仙台 | FMセンダイ |
| | エフエム秋田 | Co-much FM |
| | エフエム山形 | FMヤマガタ |
| | エフエム福島 | フクシマFM |
| 関東地方 | エフエム東京 | TOKYO FM |
| | エフエムジャパン | J-WAVE |
| | エフエムインターウェーブ | InterFM |
| | 放送大学 | ホウソウダイガク |
| | エフエム群馬 | FMグンマ |
| | エフエム栃木 | RADIO BER. |
| | エフエム埼玉 | NACK5 |
| | エフエムサウンド千葉 | bayfm |
| | 横浜エフエム放送 | Fm ヨコハマ |
| | エフエム富士 | FM-FUJI |
| 中部地方 | エフエムラジオ新潟 | FMニイガタ |
| | 長野エフエム放送 | FMナガノ |
| | 北日本放送 | KNBラジオ |
| | 富山エフエム放送 | FMトヤマ |
| | エフエム石川 | FMイシカワ |
| | 福井エフエム放送 | FMフクイ |
| 中部地方 | 静岡エフエム放送 | K・MIX |
| | エフエム愛知 | FM AICHI |
| | エフエム名古屋 | ZIP-FM |
| 近畿地方 | 三重エフエム放送 | FMミエ |
| | エフエム京都 | アルファSt. |
| | エフエム滋賀 | E-Radio |
| | エフエム大阪 | fm osaka |
| | エフエムはちまるに | FM802 |
| | 関西インターメディア | FM COCOLO |
| | 兵庫エフエムラジオ放送 | Kiss-FM |
| 中国・四国地方 | エフエム山陰 | V-air |
| | エフエム岡山 | FMオカヤマ |
| | 広島エフエム放送 | ヒロシマFM |
| | エフエム山口 | FMヤマグチ |
| | エフエム徳島 | FMトクシマ |
| | エフエム香川 | FMカガワ |
| | エフエム愛媛 | FMエヒメ |
| | エフエム高知 | FMコウチ |
| 九州・沖縄地方 | エフエム福岡 | FM FUKUOKA |
| | エフエム九州 | CROSS FM |
| | エフエム佐賀 | FMサガ |
| | エフエム長崎 | FMナガサキ |
| | エフエム中九州 | FMK |
| | エフエム大分 | FM OITA |
| | エフエム宮崎 | JOY-FM |
| | エフエム鹿児島 | ミューFM |
| | エフエム沖縄 | FM Okinawa |
| | NHK 第一放送 | NHKラジオ1 |
| | FEN オキナワ | FEN オキナワ |
| | 九州国際エフエム | Love FM |

# 放送局を選ぶ（プリセットコール）

放送局を一曲づつ記憶する（❷）

ディスプレイ表示の切り換えについて

放送局を一曲づつ記憶する（❶,❸）　マニュアルで受信する

## 1. 入力をチューナーにする

"band"キー押すたびに切り換わります。

FM
AM

FM受信時

AM受信時

## 2. 放送局を選ぶ

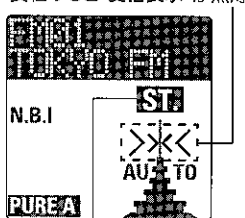
（あらかじめオートプリセットしておいてください。）→36

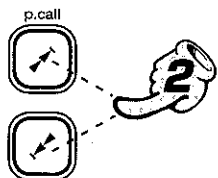
記憶させた放送局を聴く場合（プリセットコール）

キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

p.call

►►I を押すと
1→2→3 ..... 38→ 39→40→1 .....
I◄◄ を押すと
40→39→38 ..... 3→2→1→ 40.....

受信すると"受信表示"が点灯

ステレオ受信時に点灯

- キーを押したままにすると、約0.5秒間隔で放送局をスキップします。
- リモコンの数字キーでプリセット番号を入力しても、プリセットコールができます。入力のときに、10の桁を押し間違えた場合は、+10 キーを数回押し、もとの表示に戻してから入力し直してください。



# マニュアル受信とマニュアルプリセット

## マニュアルで受信する

❶"band"キーを押して"FM"または"AM"を選ぶ。

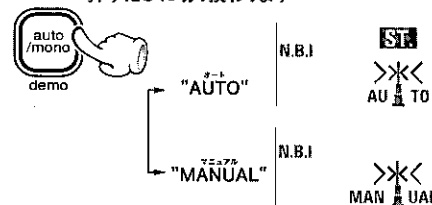
❷"auto/mono"キーを押してオート選局とマニュアル選局を切り換える。

通常は"AUTO"（オート選局）にしておきます。

- 電波が弱く、雑音が多いときはマニュアル選局にします。（マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信となります）

押すたびに切り換わります

"AUTO"　N.B.I　ST.　AU TO

"MANUAL"　N.B.I　MAN UAL

❸"tuning"キーを押して選局する

オート選局の時　：キーを押すごとに次々に受信します。

マニュアル選局の時：希望する放送局を受信するまで押す。

tuning

周波数が上がる

周波数が下がる

## 放送局を一曲づつ記憶する（マニュアルプリセット）

❶受信中にリモコンの"MEMORY"キーを押す

"– –"点滅

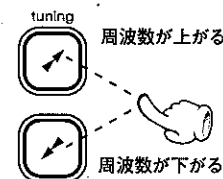
操作中に5秒以上放置すると、プリセットは中止されます。

❷リモコンの数字キーで1～40までのプリセット番号を任意に選ぶ

1 2 3
4 5 6
7 8
+10 0 +100

❸"MEMORY"キーを押す

操作中に5秒以上放置すると、プリセットは中止されます。

- プリセットを続けるときは、手順❶,❷,❸を繰り返します。
- 同じ番号を重ねて記憶させると、新しい設定内容に変更されます。

## ディスプレイ表示の切り換えについて（リモコンのみ）

オートプリセット（エリアコール）したFM局の表示を切り換えます。

"DISPLAY"キーを押すたびに切り換わります

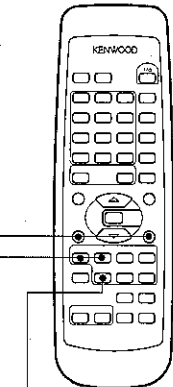
受信バンド・放送局名

受信バンド・周波数

## テレビ放送（1ch～3ch）の受信について

周波数を次のように合わせます。
1chのとき: 95.75MHz
2chのとき:101.75MHz
3chのとき: 107.75MHz

- テレビ放送はモノラル受信になります。

早送り、巻き戻しする

リバースモードを選ぶ

再生を止める

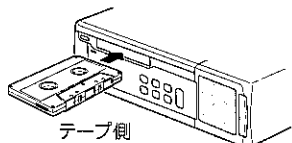
Dolby NRを選ぶ

再生を止める

一時停止する

再生する

早送り、巻き戻しする

## 1. カセットテープの挿入/排出

テープ側

テープをテープ挿入口からまっすぐに挿入してください。押し込むだけで自動的に本体へ収納されます。

テープを取り出すときは"▲ eject(イジェクト)"キーを押してください。

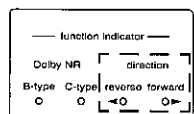
- ノーマル(TYPE I)、ハイ(TYPE II)、メタル(TYPE IV)のテープ選択は、自動設定されます。
- 100分以上のテープは、大変薄く、巻き付いたり切れたり、トラブルが発生しやすいので、ご使用はなさらないでください。
- テープは、たるみのない状態にしてください。 →56

## 2. 再生する

カセット本体

再生したい走行方向の"◄ rev(リバース)"または"► fwd(フォワード)"キーを押します。

"◄ rev"
(うら面を再生)

"► fwd"
(おもて面を再生)

direction

reverse forward

点滅





### 一時停止する

カセット本体

pause

点灯

- 再生を再開するときは、"◄ rev(リバース)、► fwd(フォワード)" キーを押します。

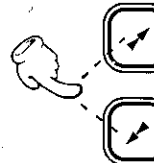
### 早送り·巻き戻しする

カセット本体

► fwd方向に早送りする

direction

reverse forward

早い点滅

◄ rev方向に早送りする

- 早送りを止めるときは、"■ stop(ストップ)"キーを押してください。

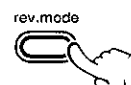
### リバースモードを選ぶ

カセット本体

rev.mode

点灯

押すたびに切り換わります。

- "⊂⊃"点灯 ......... 両面をエンドレス再生する
- 消灯 .................. 片面のみを再生して止まる

### 再生を止める

カセット本体

- 走行方向の表示が点灯します

### テープノイズを軽減する (Dolby NR)

Dolby(ドルビー) NR(ノイズリダクション)システムは、テープ特有のノイズを軽減するためのシステムです。標準の"Bタイプ"とより効果のある"Cタイプ"が搭載してあります。
録音されたテープのDolby NRタイプにあわせてお選びください。

カセット本体

Dolby NR

B-type C-type

点灯

押すたびに切り換わります。

- "B-type"点灯 ............ B-typeで再生
- "C-type"点灯 ............ C-typeで再生
- 消灯 .......................... Dolby NR不使用

### 走行方向表示について

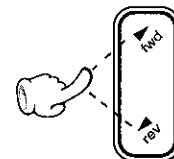
再生や録音が自動スタートするときの、テープが進む方向は、"◄ reverse(リバース)"または"► forward(フォワード)"インジケーターの点灯でお知らせします。最後にテープを止めたときの方向が記憶されます。

走行方向表示
direction

reverse forward

点灯

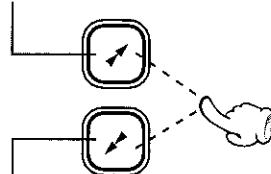
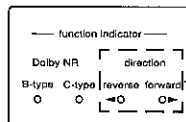
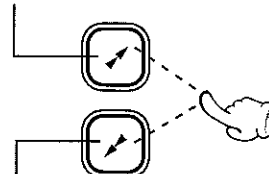
カセット本体

走行方向を変えるときは、再生したい方向のキーを押してから"■ stop"キーを押します。

## DPSS (ダイレクト・プログラム・サーチ・システム)

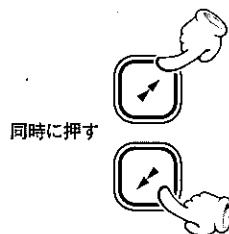
4秒以上の無録音部分を「曲間」として探し出して、カセットテープをCDのように手軽に頭出しや飛び越し選曲などができる機能です。

### 飛び越し選曲

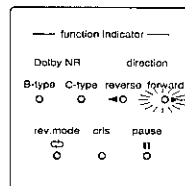
曲の頭出しをしたり、途中の曲を飛び越して、目的の曲の最初から再生することができます。最大16曲まで飛び越せます。

カセット本体のみ

### 無音部分を早送りして聴く(ダッシュ&プレイ)

再生中に10秒以上の無音部分があると、その部分を自動的に早送りし、音声のある部分だけを再生する場合に使います。

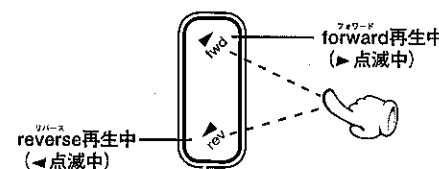
カセット本体のみ

リバースモードの状態で動作が変わります。

- ① "⊂⊃"点灯 ....... 両面を8回繰り返し再生して止まる
- ② 消灯 .............. 片面のみを8回繰り返し再生して止まる

● "■ stop"キーを押すと再生が停止し、ダッシュ&プレイが取り消されます。

### 同じ曲を繰り返し聴く(1曲リピート)

同じ曲を16回繰り返して再生する場合に使います。

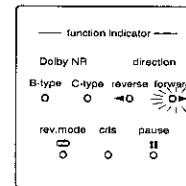
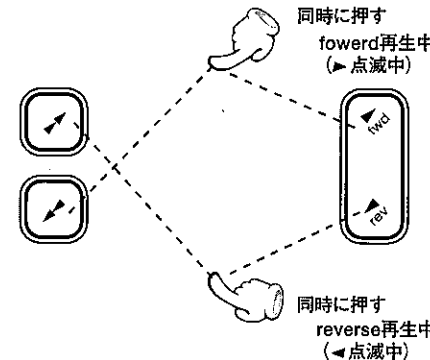
カセット本体のみ

再生中に"► fwd"または"◄ rev"を押す

- 再生を16回繰り返したあと通常の再生に戻ります。
- "■ stop"キーを押すと再生が停止し、1曲リピートが取り消されます。

### 巻き戻し再生

そのとき聴いている面の最初まで巻き戻してから、再生する場合に使います。

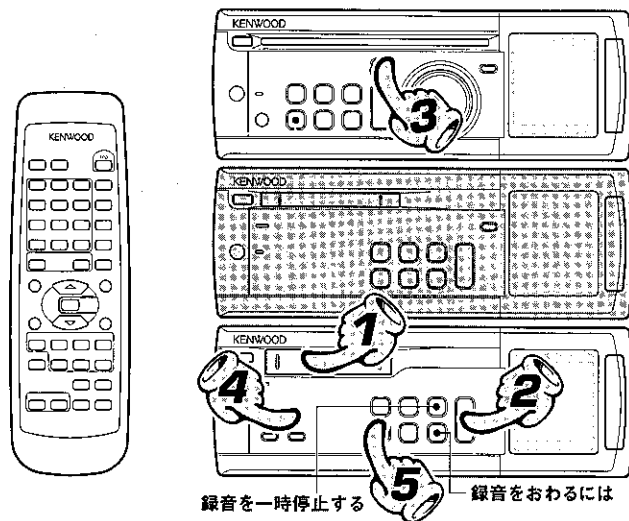
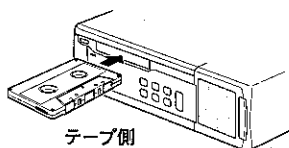
カセット本体のみ

"► fwd"または"◄ rev"キーと"◄◄"または"►►"キーを同時に押す

次のようなテープでは、DPSS機能が正常に動作しません。

- 会話、落語などで音声が4秒ぐらい途切れるテープ
- クラシック音楽など、1曲の中に、音量が極端に小さくなるところのあるテープ
- 曲間に大きな雑音などが録音されているテープ
- 曲間が4秒未満のテープ
- 小さな音で録音されたテープ
- クロスフェード録音(前曲の最後に、次曲の最初が重なっていること)されたテープ


カセット操作編

RD-VH7/X-VH7 [JA]

メモ 本機はメタルテープでの録音はできませんのでご注意ください。

## 1. カセットデッキにテープを入れる

テープをテープ挿入口からまっすぐに挿入してください。押し込むだけで自動的に本体へ収納されます。

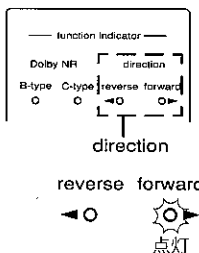
- ノーマル(TYPE Ⅰ)、ハイ(TYPE Ⅱ)のテープの種別は、自動設定されます。
- 100分以上のテープは、大変薄く、巻き付いたり切れたり、トラブルが発生しやすいので、ご使用はなさらないでください。
- テープは、たるみのない状態で入れてください。 →56

## 2. テープの進む向きを選ぶ

カセット本体

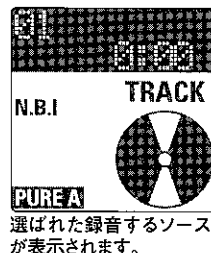
❶録音したい走行方向を"► fwd"または"◄ rev"キーを押して選びます。
❷"■ stop"キーを押す

direction

- テープの録音を始める位置を確認しておきます。

## 3. 録音するソースを選ぶ

- TUNER(ラジオ放送) →38
- CD →28
- MD
- TAPE(録音できません)
- AUX

"TAPE"以外を選んでください

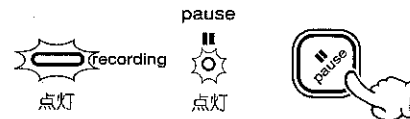
- CDまたはMDを選んだ場合、すでにディスクがセットされているときは、再生が始まりますので"■ stop"キーを押して停止させてください。

選ばれた録音するソースが表示されます。



RD-VH7/X-VH7 [JA]

### 録音を一時停止する

カセット本体のみ

pause
点灯

- 録音を再開するときは、"● rec/arm"キーを押します。

### 録音を終わるには

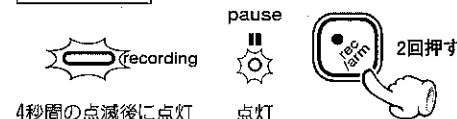
カセット本体

### 約4秒間の無音部分をつくる (Auto Rec Mute)

録音を始めるまえに約4秒間の無音部分をつくって録音ポーズ状態するには

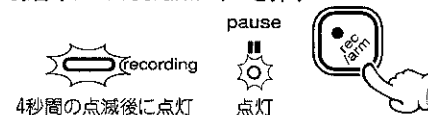
❶ "■ stop"キーを押して停止状態にする
❷ "● rec/arm"キーを2回押す

カセット本体のみ

4秒間の点滅後に点灯　点灯

録音中に約4秒間の無音部分をつくって録音ポーズ状態するには

カセット本体のみ

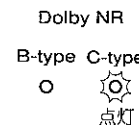
録音中に"● rec/arm"キーを押す

4秒間の点滅後に点灯　点灯

## 4. 録音条件を決める

押すたびに切り換わります

❶リバースモードを選ぶ
- "⊂⊃"点灯 ............ 両面を録音して止まる
- 消灯 .................... 片面のみ録音して止まる

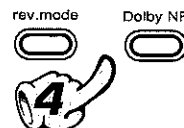
rev.mode 点灯

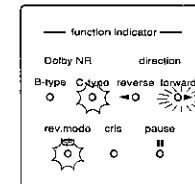
❷Dolby NRを選ぶ
- "B-type"点灯 ........... B-typeで録音
- "C-type"点灯 ........... C-typeで録音
- 消灯 .......................... Dolby NR不使用

Dolby NR
B-type C-type
点灯

## 5. 録音をスタートさせる

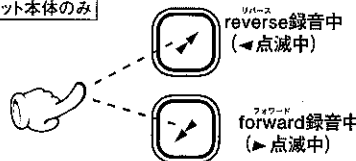
❶"● rec/arm"キーを押す

❷録音する入力ソースを再生(受信)する

function indicator
Dolby NR direction
B-type C-type reverse forward
rev.mode crls pause

- crls機能を使用すると、録音レベルの自動調整ができます。 →46
- 録音する面(片面または両面)が終了すると、自動的に停止します。

カセット操作編

## 録音をやり直したいとき

録音中に"◄◄"または"►►"キーを押す

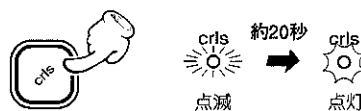
カセット本体のみ

録音開始位置に戻り停止します

- 録音が中止され、テープを巻き戻し、約2秒のあきを作って停止します。(録音開始位置の手前に4秒以上の無音部分がある場合)
- 録音済みの曲が手前にない場合、または録音開始位置に4秒の無音部分がない場合に、テープを巻き取って止まります。

## 録音レベルを自動調整する(crls)

カセットデッキ(X-VH7)には、標準的な録音レベルがあらかじめ設定されていますが、crls機能を使うと、音楽ソースに最適の録音レベルを自動的に設定します。

カセット本体のみ

❶ 録音したい内容を再生する
(目的の放送局を受信する)

❷ "crls"キーを押す

"crls"キーを押すと…
録音レベルを自動設定し、そのとき選んでいた入力の録音レベルとして記憶します。入力ソースを切り換えたり、ディスクを変えた場合は設定しなおしてください。

一度も"crls"キーを押さないと…
設定されている基本レベルで録音されます。

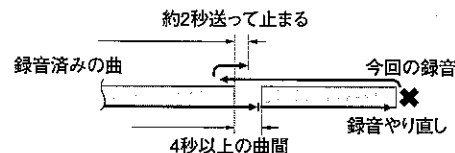
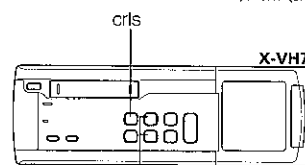
- 約20秒で録音レベルの設定が終了し、録音ポーズ状態になります。
- 設定中(点滅中)に録音を始めると、ひずんだ音が録音される場合があります。
- "crls"キーを押したときから3秒以上無音が続くと、録音レベルの設定はできません。

基本レベルに戻すには
"crls"キーを約3秒間押してインジケーターを消灯させる。

### シンクロ録音

CDまたはMDを録音するとき、カセットデッキとCDまたはMDを同時に一時停止状態にして、CDまたはMDの再生を始めるとカセットデッキの録音を同時に始めることができる便利な機能です。
この動作はRD-VH7、X-VH7がシステム接続されている時に限ります。

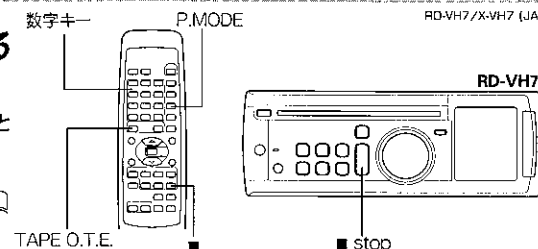
❶CDまたはMDの"►/❚❚"キーを2回押す
❷録音したい曲を"❙◄◄、►►❙"で選ぶ
(選んだ曲の最初で一時停止になります。)
❸カセットデッキの"● rec/arm"キーを2回押す
(録音の一時停止状態になります。)
❹CDまたはMDの"►/❚❚"キーを押す
(シンクロ録音がスタートします。)

- 再生機器の停止キーを押すと、録音を中止します。


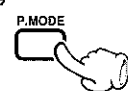




## CDの曲順を並べ換えて録音する
## (プログラム録音)

ディスクの中から好きな曲を、好きな曲順で録音することができます。(最大32曲)
プログラムされた曲順は設定後でも変更ができます。 →33

入力切換を"CD"にする

### 1 停止を確認する

CDが再生中のときは…
"■ stop"キーを押す

あらかじめ"crls"を設定しておくと、より最適な録音ができます。 →46

### 2 "PGM"表示を点灯させる

"P.MODE"キーを押す

N.B.I PGM 点灯

### 3 録音したい順に曲を選ぶ

❶曲番号を選ぶ

8秒以内に手順❷を行う

数字キーを押す順序は
12曲目なら ............ +10 2
20曲目なら ............ +10 +10 0

❶ 選曲 点滅 ➡ ❷ 確定

❷"P.MODE"キーを押す

❸手順❶、❷を繰り返す

- 32曲まで選べます。"PGM FULL"と表示されると、それ以上プログラムは受け付けません。
- "CLEAR"キーを押すたびに、最後の曲から1曲ずつ消えていきます。
- 使用するテープの録音時間を超えないように選んでください。

### 4 録音する

"TAPE O.T.E."キーを押す

- 本機にMDレコーダーが接続されている場合に"MD O.T.E. "を押すとMDに録音することができます。

# CDを聴きながら録音したい曲を選ぶ
## (ワンタッチエディット1曲録音)

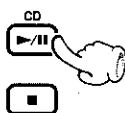
CDを聴いていて、録音したい曲が出てきたら、O.T.E.(ONE TOUCH EDIT)キーを押してください。その曲の頭から録音が始まります。

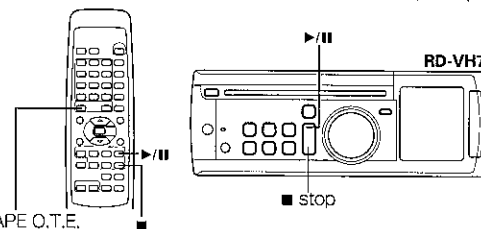
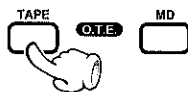
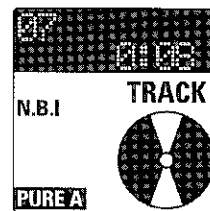
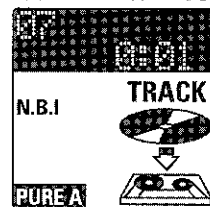
録音の準備が必要です →44〜→45(手順1〜4)

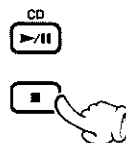
### 1 CDを再生する

ランダム再生以外を選んでください

"▶/II CD"キーを押す

あらかじめ"crls"を設定しておくと、より最適な録音ができます。 →46

### 2 再生中の曲を録音する

"TAPE O.T.E."キーを押す

7曲目でキーを押したとき

● 再生中の曲の初めに戻り、録音が始まります。

● 本機にMDレコーダーが接続されている場合に"MD O.T.E."を押すとMDに録音することができます。

録音が終了すると、4秒間の無録音部分を作り、カセットデッキが停止します。CDプレーヤーは一時停止状態になります。

他の曲を録音するには......手順1, 2を繰り返してください。

### 録音を途中でやめるとき

再生中に"■ stop"キーを押す

# CDを曲順通りに全曲録音する
## (ワンタッチエディット全曲録音)

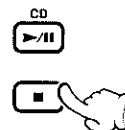
CDの停止状態でO.T.E.(ONE TOUCH EDIT)キーを押すと、ワンタッチでCDの再生と同時に録音を開始することができます。

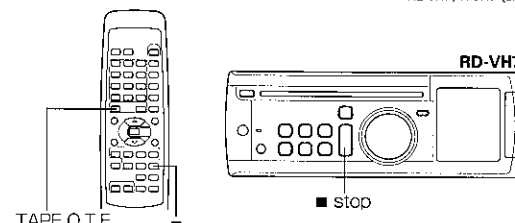
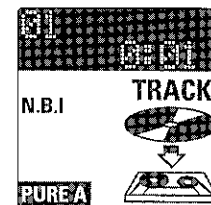
録音の準備が必要です →44〜→45(手順1〜4)

### 1 停止を確認する

CDが再生中のときは・・・

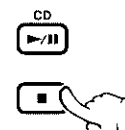
"■ stop "キーを押す

あらかじめ"crls"を設定しておくと、より最適な録音ができます。 →46

### 2 録音を開始する

"TAPE O.T.E."キーを押す

● CDの再生と同時にテープの録音が始まります。
● カセットテープの折り返し部分では、ガイドテープの分だけ曲が録音されません。曲が途切れないように録音したいときは、"テープに録音する" にしたがってうら面の最初から録音し直してください。 →44

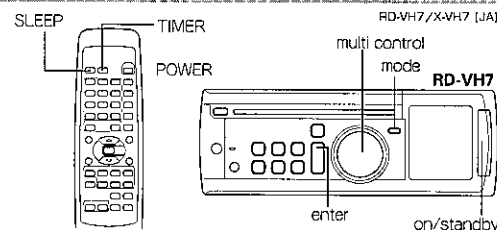
● 本機にMDレコーダーが接続されている場合に"MD O.T.E."を押すとMDに録音することができます。

### 録音を途中でやめるとき

再生中に"■ stop "キーを押す

● カセットデッキとCDプレーヤーが停止します。

RD-VH7/X-VH7 (JA)

3種類のタイマーを搭載しています。用途に合わせてお使いください。

- **O.T.T.タイマー**
- **プログラムタイマー再生(AIタイマー再生)、タイマー録音**
- **スリープタイマー**

"時刻合わせ"を済ませてから、タイマーを設定してください。 →23

## O.T.T.タイマー

タイマーで再生時間をセットするだけで、開始から1時間後に自動的に電源がオフになるタイマーです。

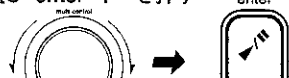
❶聴きたいソースを選び、音量を設定する

O.T.T.タイマーで再生されている間は、プログラムタイマーは働きません。

❷"mode"キーを押す

❸"multi control"つまみを回して"TIMER SET?"を選び"enter"キーを押す

❸ タイマーの選択

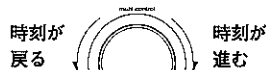
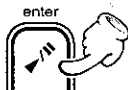
点滅

❹"multi control"つまみを回して、"O.T.T. SET?"を選び"enter"キーを押す

❺"multi control"つまみを回してオン時刻をセットする

時刻が戻る　時刻が進む

❺ オン時刻設定

点滅

- オン時刻は、5分単位で設定できます。

❻"enter"キーを押す

❼リモコンの"TIMER"キーを繰り返し押して"O.T.T."を選ぶ

❽"I/⏻ on/standby"キーで電源オフ(スタンバイ)状態にする
("standby/timer"インジケーターが緑色に点灯します)

### 解除するには

- 電源をオンにして、"TIMER"キーを繰り返し押して"O.T.T."を消す。
- O.T.T.タイマーが動作中に"TIMER"キーを繰り返し押して"O.T.T."を消すと通常再生になります。



RD-VH7/X-VH7 (JA)

## プログラムタイマー再生(AIタイマー再生)、タイマー録音

2系統(PROG.1 、PROG.2)の24時間タイマー(毎回働きます)です。
PROG. 1、PROG. 2 には、働く時間帯と内容を予約しておき、必要に応じて、働かせるか、働かせないかを選べます。

- CSやBSのデジタル放送を録音する場合は、AUX端子に接続してください。(アナログ録音のみ可能です)
- タイマー予約は、PROG. 1とPROG. 2の2系統を、同時に予約できます。
- PROG. 1とPROG. 2の動作する時間は重ならないように、1分以上の間隔をあけて予約してください。

"時刻合わせ"を済ませてから、タイマーを設定してください。 →23

### 1 聴きたい(録音したい)ソースを選び、音量を設定する

| ●ラジオ放送を聴く | ●CDを聴く | ●テープを聴く |
|---|---|---|
| 放送局をプリセットしておく →36 | ディスクを入れる(プログラム再生はできません。) →28 | カセットデッキにテープをセットする →40 |
| ●MDを聴く | ●録音をする | ●AUX端子の機器を録音、再生する |
| MDレコーダーにディスクをセットする | 録音の準備をする →44, →45 手順1〜4 | AUX端子に接続された機器の録音、再生の場合は"接続のしかた"を参照して、接続を済ませてください。 →15 |

MDレコーダー(DM-VH7)で再生・録音するときはDM-VH7に付属の取扱説明書をあわせてご覧ください。

### 2 タイマー予約モードにする

PROG.1で午前10:30から午前11:30までラジオ放送を再生するときの例

❶"mode"キーを押す

❷"multi control"つまみを回して"TIMER SET?"を選んで"enter"キーを押す

❷ タイマーの選択

点滅

❸"multi control"つまみを回して、"PROG.1 SET ?"を選んで"enter"キーを押す

❸ PROG.1を選択

点滅

- 間違えたときは"mode"キーを押して解除し、手順2からやり直してください。
- すでに予約されているときは、新しい設定内容に変わります。

次ページに続く

タイマー操作編

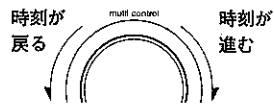
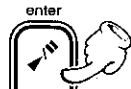
## 3 オン時刻を設定する

❶"multi control"つまみを回してオン時刻を設定する

❶ オン"時"

点滅

❷"enter"キーを押す

❸❶、❷の手順を行ない"時"を入力した後、同じ手順で"分"を入力する

- 間違えたときは"mode"キーを押して解除し、手順❷からやり直してください。

## 4 オフ時刻を設定する

❶"multi control"つまみを回してオフ時刻を設定する

❶ オフ"時"

点滅

❷"enter"キーを押す

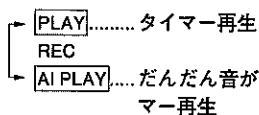
❸❶、❷の手順を行ない"時"を入力した後、同じ手順で"分"を入力する

- 間違えたときは"mode"キーを押して解除し、手順❷からやり直してください。

## 5 希望の予約を設定する

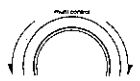
**タイマー再生、AIタイマー再生をするとき**

❶"multi control"つまみを回してタイマーモードを選ぶ

① "PLAY"または"AI PLAY"を選ぶ
- PLAY……タイマー再生
- REC
- AI PLAY……だんだん音が大きくなるタイマー再生

② "enter"キーを押す

次ページに続く

**放送のタイマー録音をするとき**

❶"multi control"つまみを回して録音モードを選ぶ

"REC"を選ぶ
- PLAY
- REC
- AI PLAY

"enter"キーを押す

❷入力ソースを選ぶ

何を録音するか選ぶ
- TUNER
- AUX

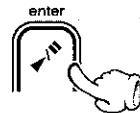
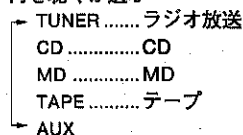
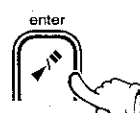
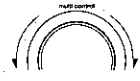
"enter"キーを押す

次ページに続く





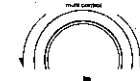
❷入力ソースを選ぶ

① 何を聴くか選ぶ
- TUNER……ラジオ放送
- CD……CD
- MD……MD
- TAPE……テープ
- AUX

② "enter"キーを押す

❸放送局を選ぶ(TUNER時のみ)

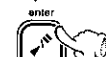
① プリセットチャンネルを選ぶ



② "enter"キーを押す

❸放送局を選ぶ(TUNER時のみ)

プリセットチャンネルを選ぶ

"enter"キーを押す

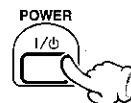
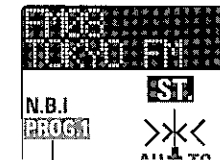
❹録音する機器を選ぶ

- TAPE…… テープ
- MD…… MD

"enter"キーを押す

- 放送を録音するときは、タイマーで電源がオンになると、ミュートが自動的にオンになります。

## 6 プログラムをセットする

❶リモコンの"TIMER"キーで"PROG. 1"を選択する

❷"I/⏻ on/standby"キーで電源オフ(スタンバイ)状態にする
("standby/timer"インジケーターが緑色に点灯します)

❶ タイマー実行

点灯

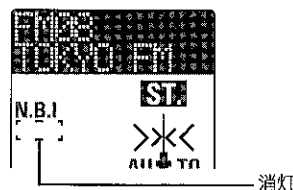
- プログラムをセットしないと、タイマーは働きません。

以上でプログラムタイマー予約は終了です。
PROG. 2にプログラムタイマー予約をする場合も同様の手順でおこなってください。

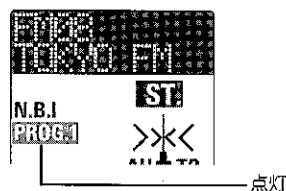
電源がオフになっていることを確認してください。

- 予約内容は、削除できません。内容を変更することにより、以前の内容が消されます。
- 電源をオフ(スタンバイ)状態にしたとき"standby/timer"インジケーターが緑色の点滅をしているときは、タイマーの実行がされません。

### タイマーの実行を解除するには(リモコンのみ)

"TIMER"キーを繰り返し押して"PROG. 1"または"PROG. 2"の表示を消灯させる。

● 予約内容は記憶しています。

### 設定した内容のタイマーを再びセットする(リモコンのみ)

"TIMER"キーを繰り返し押して"PROG. 1"または"PROG. 2"を選ぶ

● ディスク、テープの準備、音量の調節をしておきます。

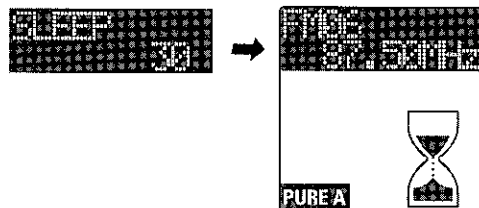
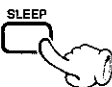
### スリープタイマー

何分後に電源を切るかを設定できるタイマーです。

電源をオン状態(現在再生中のモード)中に

リモコンの"SLEEP"キーを押す

● 1回押すごとに10分ずつ増加していきます。最大約90分まで設定できます。

10→20→30.....70→80→90→解除→10→20.....

本システムは、スリープタイマーの動作中は各機器の表示部の明るさが自動的に暗くなるように設定されています。(オートディマー機能)

#### 解除するには

電源をオフにする、または"SLEEP"キーを解除になるまで繰り返し押す





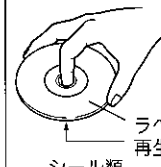
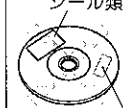
## ディスクとテープの取り扱いかた

### 本機で使用できるディスクについて

CD (12cm、8cm)、CDVと CD-G/CD-EG (CDグラフィックス)、CD-EXTRAの音声部分が再生できます。
ディスクレーベル面に disc のマークが入ったものなど IEC規格に合格したものをご使用ください。

### 異常なディスクは使用しない

再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや欠けのあるディスク、大きくそったディスク等は絶対に使用しないでください。プレーヤーの破損、故障の原因になります。
円形以外の形をしたディスクは、故障の原因になりますので、ご使用にならないでください。
再生面（ラベル面の反対側）に着色してあるものや汚れているCDは、使用しないでください。

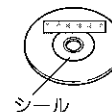
### ディスク取扱上のご注意

**取り扱い**
再生面にふれないように持ってください。

再生面はもちろん、ラベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。

**お手入れ**
ディスクに指紋や汚れがついたときは、やわらかい布などで、放射状に軽くふきとってください。

**保存**
長い間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。

### ディスクアクセサリーについて

音質向上やディスク保護を目的としたディスク用アクセサリー(スタビライザー、保護シート、保護リングなど)およびレンズクリーナーは、故障の原因になりますので、ご使用にならないでください。

### レンタルディスク、中古ディスクの取り扱いについて

図の様にシールが貼られているディスクはご使用にならないでください。シールから糊がはみ出したり金属板が貼られている場合があり、ディスクが取り出せなくなる恐れがあります。
シール類をはがした後、糊がラベル面に残っていると、故障の原因になります。糊のベタつきがある場合、必ずふき取ってからご使用ください。

### セットのお手入れ

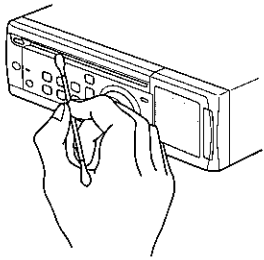
前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

### 接点復活剤について

接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

# メンテナンス

## CD挿入口の清掃

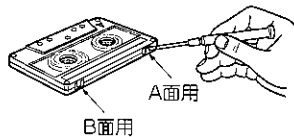
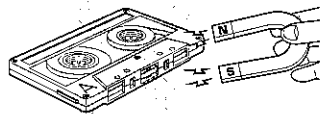
**挿入口回りのクリーニング**
CDの挿入口はホコリがたまりやすいので、時々掃除してください。
ホコリがたまった状態でCDを挿入するとディスクを傷つける場合があります。

## カセットヘッドのお手入れ

**ヘッドの消磁**
録音・再生ヘッドが磁気を帯びると雑音が大きくなります。市販のカセット形状をした消磁器(ヘッドイレーサー)で消磁してください。

**ヘッドの掃除**
いつまでも最良の状態でご使用になるには、テープ再生時間約10時間ごとに、ヘッド(録音/再生/消去)、キャプスタン、ピンチローラーのクリーニングを心がけてください。
市販のカセット形状をしたクリーニングテープで掃除してください。

## カセットテープについてのご注意

**誤消去防止装置**
大切な録音のあとには、カセットのツメを折ってください。
誤消去・誤録音が防げます。

**再び録音するには**　ツメを折った所だけにテープをはる。

**カセットテープの保管について**
直射日光下や暖房器などのそばに放置しないでください。
また、磁石や磁気は近づけないでください。

**テープがたるんでいる場合**
このような場合には、リール軸に鉛筆などを差し込んで、テープのたるみをとってから装着してください。

メモ

**1. 100分以上のテープについて**
100分以上のテープは大変薄く、ピンチローラーに巻きついたり、切れたりトラブルが発生しやすいので、ご使用はお避けください。

**2. エンドレステープについて**
エンドレステープは故障の原因となりますので、ご使用にならないでください。

参考編



# 注意事項

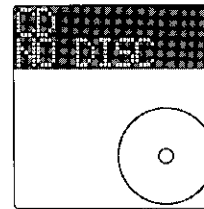
ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

HDCDシステムはパシフィックマイクロソニック社の許諾に基づき製造されています。米国特許番号5,479,168 5,638,074 5,640,161 5,808,574 5,838,274 5,854,600 5,872,531 オーストラリア特許番号669114。その他特許申請中。

## 輸送時または移動時のご注意

**本機を輸送するときや、移動するときは、下記の操作を行ってください。**

1. **電源をオンにします。**
2. **入力モードを"CD"にして、数秒間待って、表示部が図の表示になったことを確かめてください。ディスクが入っている場合は、"▲ eject(イジェクト)"キーで取り出してください。**

3. **電源をオフにします。**

修理のため、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所に、セットをお持ちになるときは、お買い上げのセット全部をお持ちください。(スピーカーを除きます。)

## 著作権について

あなたが録音または録画したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

## メモリーバックアップ

| | |
|---|---|
| 電源プラグをコンセントから抜くとすぐ消えるメモリーの内容 | 時計表示 |
| 電源プラグをコンセントから抜いて最低1日で消えるメモリーの内容 | POWERの状態(ONまたはOFF)<br>入力切換<br>ボリュームの値<br>受信バンド<br>周波数<br>プリセット放送局<br>タイマーの設定内容 |

## 結露にご注意

本機と外気の温度差が大きいと、本機に水滴(露)が付くことがあります。この現象がおきますと、本機が正常に動作しないことがあります。
このようなときには、本機の電源を入れた状態で、数時間放置し、乾燥させてからご使用ください。

**次のような状態のときは、特に結露にご注意ください。**
気温差の大きいところへ持ち込んだときや、湿気の多い部屋など。

## ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

参考編

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に、症状にあわせて一度チェックしてみてください。

### マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。
マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

●リセットにより、各種の記憶内容は消滅し、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

**RD-VH7**
電源プラグをコンセントから抜き、"■stop"キーを押しながら、差し込み直す。
●このときCDが入っていた場合は強制的に排出されます。

**X-VH7**
電源プラグをコンセントから抜き、"▲eject"キーを押しながら、差し込み直す。
●このときテープが入っていた場合は強制的に排出されます。

## アンプ・チューナー/CDプレーヤー部、スピーカー部

| 症状 | 原因 | 処置 | 参照 |
|---|---|---|---|
| 音が出ない。 | ●スピーカーコードがはずれている。<br>●音量を最小にしている。<br>●ミュートがオンになっている。<br>●ヘッドホンプラグが差込まれている。 | ●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。<br>●適当な音量にする。<br>●ミュートをオフにする。<br>●ヘッドホンプラグを抜く。 | →14<br>→24<br>→25<br>→25 |
| スタンバイインジケーターが赤く点滅している。 | ●スピーカーコードがショートしている。 | ●一時、電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度電源スイッチを入れる。 | →17 |
| スタンバイインジケーターが緑色で点滅している。 | ●時刻合わせをしないでタイマー設定を実行している。 | ●タイマー設定をする前に必ず"時刻合わせ"をする。 | →23 |
| スピーカーの片側から音が出ない。 | ●スピーカーコードがはずれている。 | ●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 | →17 |
| 時刻表示が、ある時間で止まったまま点滅している。 | ●停電があった。<br>●電源プラグを一度抜いた。 | ●現在時刻をもう一度合わせる。<br>●現在時刻をもう一度合わせる。 | →23<br>→23 |
| 突然、デモンストレーションが始まった。 | ●電源プラグを一度抜いた。または停電があった。 | ●故障ではありません。"auto/mono,demo"キーを押して解除する。 | →5 |
| タイマーが作動しない。 | ●現在時刻を合わせていない。停電があった。<br>●タイマーのオン時刻とオフ時刻を設定していない。<br>●タイマーの実行指定をしていない。 | ●"時刻合わせ"をみて現在時刻を合わせる。<br>●タイマーのオン時刻とオフ時刻を設定する。<br>●"TIMER"キーで実行指定をする。 | →23<br>→51<br>→53 |
| 突然、電源が切れた。 | ●"A.P.S."機能が働いた。 | ●"A.P.S."機能を解除する。 | →27 |
| 本体の液晶表示部が見えない、見えにくい。 | ●コントラストの調整が最小になっている。 | ●"mode"キーを2秒以上押す。(コントラストが初期値に設定されます。) | |





## アンプ・チューナー/CDプレーヤー部、スピーカー部

| 症状 | 原因 | 処置 | 参照 |
|---|---|---|---|
| ラジオ放送が受信できない。 | ●アンテナを接続していない。<br>●受信バンドが合っていない。<br>●受信したい放送局の周波数に合っていない。 | ●アンテナを接続する。<br>●受信バンドを合わせる。<br>●受信したい放送局の周波数に合わせる。 | →14<br>→38<br>→38 |
| ラジオ放送に雑音が入る。 | ●自動車のイグニッションノイズ。<br>●電気器具の影響によるもの。<br>●テレビが近くにある。 | ●外部アンテナを道路から離して設置する。<br>●電気器具の電源を切ってみる。<br>●テレビから離す。 | →14 |
| ラジオ放送でプリセットしたあと、プリセットコールで受信できない。 | ●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。<br>●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。 | ●受信できる周波数の放送局をプリセットする。<br>●もう一度プリセットする。 | →36<br>→36 |
| ディスクを入れても再生できない。<br><br>"▲eject"キーを押しても"PLEASE WAIT"と表示されディスクが出てこない。 | ●ディスクが裏返しに入っている。<br>●ディスクがひどく汚れている。<br>●ディスクに傷がついている。<br>●光学レンズに露がついている。 | ●ラベル面を上にして、正しく入れる。<br>●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。<br>●ディスクを取り換える。<br>●"結露にご注意"を参照し露を蒸発させる。<br>●"PLEASE WAIT"の表示が消えるのを待ってから"▲ eject"キーを押す。 | →28<br>→56<br>→57 |
| CD音が出ない。 | ●ディスクが入っていない。<br>●再生状態になっていない。<br>●ディスクがひどく汚れている。<br>●ディスクに傷がついている。 | ●ディスクを入れる。<br>●"CD ▶/❚❚" キーを押す。<br>●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。<br>●ディスクを取り換える。 | →28<br>→29<br>→56 |
| 音とびがする。 | ●ディスクが汚れている。<br>●ディスクに傷がついている。<br>●本機に震動が加わっている。 | ●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。<br>●ディスクを取り換える。<br>●震動のない場所に設置する。 | →55 |
| ディスクに傷がつく | ●CDの挿入口にホコリが溜まっている。<br>●ディスクの外周、内周にバリがついている。 | ●CDの挿入口の清掃をする。<br>●バリがついているディスクは使用しない。 | →56 |

## カセットデッキ

| 症　状 | 原　因 | 処　置 | 参照 |
|---|---|---|---|
| 再生キーを押しても音が出ない。 | ● ヘッドが汚れている。<br>● 巻き取りムラがありテープが重くなっている。<br>● 未録音テープを再生している。 | ● "ヘッドの掃除"をみてヘッドを掃除する。<br>● テープを交換してみる。<br>● 録音済みテープを使う。 | →56 |
| 操作キーを押しても作動しない。 | ● 電源を入れてから、4秒以内に操作キーを押している。<br>● テープが入っていない。<br>● 巻き取りムラがありテープが重くなっている。<br>● テープがどちらかに巻き取られている。 | ● 4秒以上たってから操作キーを押す。<br>● テープを入れる。<br>● テープを交換してみる。<br>● デッキの走行方向をかえる、またはテープを裏返す。 | →40<br>→41 |
| DPSSが誤動作する。 | ● 曲と曲の間が短いなどDPSSに不適当なテープを使用している。 | ● "メモ"をお読みください。 | →43 |
| 音がかすれたり高音が出なくなる。 | ● ヘッドが汚れている。<br>● テープがのびたり、ワカメ状になってる。 | ●"ヘッドの掃除"をみてヘッドを掃除する。<br>● テープを交換する。 | →56 |
| 音がひずむ。 | ● "crls"キーで録音レベルの設定をしていない。<br>● ひずんだ音で録音されたテープを再生している。 | ● "録音レベルを自動調整する(crls)"をお読みください。<br>● テープを交換する。 | →46 |
| 雑音が大きい。 | ● ヘッドが磁気を帯びている。<br>● 外部の雑音を誘導している。<br>● DOLBY NRをオンで録音したテープをオフで再生している。 | ● "ヘッドの消磁"をみて消磁する。<br>● 電気器具、テレビなどから離す。<br>● DOLBY NRをオンにする。 | →56<br>→41 |
| 音がふるえる。 | ● キャプスタン、ピンチローラーが汚れている。<br>● テープに巻き取りムラがある。 | ● "ヘッドの掃除"をみてヘッドを掃除する。<br>● テープの端から端まで通して早送り、巻戻し、または再生をして巻き直す。 | →56<br>→41 |
| "● rec/arm"キーを押しても録音できない。 | ● カセットテープのツメが折れている。<br>● 入力ソースが、TAPEになっている。<br>● テープがどちらかに巻き取られている。 | ● ツメの折れていないテープを使う、または穴をふさぐ。<br>● "input"キーを押して録音したいソースにする。<br>● デッキの走行方向をかえる、またはテープを裏返す。 | →56<br>→44<br>→44 |





## リモコン

| 症　状 | 原　因 | 処　置 | 参照 |
|---|---|---|---|
| リモコンで操作できない。 | ● 電池切れ。<br>● 操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。<br>● 再生しようとする機器に、テープ、CD、MDが入っていない。<br>● 録音中のカセットデッキで再生しようとしている。 | ● 新しい電池に入れ換える。<br>● 操作範囲内で操作する。<br>● 再生しようとする機器に、テープ、CD、MDを入れる。<br>● 録音が終わるまで待つ。 | →22<br>→22 |

1. テープの種類によっては、自動的にテープが止まったときに"キュー"という音がすることがあります。これはテープ保護機構が働くためで、故障ではありません。
2. 100分以上のテープは、テープ厚が薄くてわかめ状になりやすいため、ご使用にならないでください。

⚠ このページは、安全確保のために必ずお読みください。



## アンプ・チューナー (RD-VH7)

### [アンプ部]

実用最大出力
20W+20W(EIAJ 6Ω)
SN比
ライン ................ 93dB
全高調波ひずみ率 ........ 0.05 %(1 kHz、10 W、6 Ω)
周波数特性
ライン .............. 20 Hz〜50 kHz、+0 dB、−3 dB
出力レベル/インピーダンス
スーパーウーファープリアウト ......... 2 V / 1 kΩ

### [チューナー部]

FMチューナー部
受信周波数範囲.......................... 76 MHz〜108 MHz
実用感度(モノラル)
................................ 2.0 μV(75 Ω) / 17.2 dBf
SN比(1 kHz / 75 kHz dev.)
モノラル ........................ 70 dB(65 dBf 入力時)
ステレオ ........................ 65 dB(65 dBf 入力時)
実効選択度 (±400 kHz) .............................. 50 dB
ステレオ セパレーション(1 kHz) ................ 36 dB
出力レベル/インピーダンス(FM 1kHz / 75kHz dev.)
AMチューナー部
受信周波数範囲.......................... 531 kHz〜1629 kHz
実用感度 ................................ 18 μV(500 μV / m)
SN比
モノラル ................................ 45 dB

### [CDプレーヤー部]

読み取り方式 .......................非接触光学式読み取り(半導体レーザー)
回転数............................ 200rpm〜500rpm(CLV)
周波数特性(EIAJ) ............................ 4 Hz〜20,000 Hz
SN比(EIAJ) ...................................... 96 dB以上
全高調波ひずみ率(EIAJ) ................0.01 %以下(1 kHz)
ワウ・フラッター(EIAJ)
......................... 測定限界以下(±0.001% W PEAK)
デジタル出力
オプチカル ..........................-15 dBm 〜 -21 dBm
(発光波長 660 nm)

### [電源部・その他]

電源電圧・電源周波数 ............ AC100V, 50Hz/60Hz
定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示) ...... 45 W
最大外形寸法 .................................. 幅 247mm
高さ 96mm
奥行 291mm
質量(重量) ........................................4.0kg(正味)

## カセットデッキ(X-VH7)

トラック方式 .......... 4トラック2チャンネルステレオ
録音方式 ................ 交流バイアス (周波数:105kHz)
ヘッド
録音・再生ヘッド ........................................1
消去ヘッド ...................................................1
モーター ....................................... DCモーター ×1
ワウ&フラッター ............................ 0.15% (W.RMS)
早巻き時間.......................................約110秒 (C-60)
周波数特性
TYPE I (ノーマルテープ) .. 40Hz〜18kHz, ±3dB
TYPE II (クロームテープ) .. 40Hz〜19kHz, ±3dB
総合SN比(クロームテープ)
DOLBY NR OFF.............................................60dB
DOLBY B NR ON .........................................67dB
DOLBY C NR ON .........................................73dB
入力感度/インピーダンス
ライン (REC) ................................ 77.5mV/47kΩ
出力レベル/インピーダンス
ライン (PLAY) ................................ 775mV/10kΩ

### [電源部・その他]

電源電圧・電源周波数 ............. AC100V, 50Hz/60Hz
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) ..... 11W
ACアウトレット ........................ 1 (非連動最大100W)
最大外形寸法(横置時)........................... 幅 247mm
高さ 96mm
奥行 279mm
質量(重量) ........................................3.2kg(正味)

1. これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
2. 極端に寒い(摂氏0度以下の)場所では、十分に性能を発揮できないことがあります。







### 保証書 (別途添付)

製品には保証書が(別途)添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

### 保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

### 修理に関するご相談ならびにご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーションへお問い合わせください。
(お問い合わせ先は、添付の「ケンウッドサービス網」をご覧ください。)

### 補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後、8年間です。
この期間は、通商産業省の指導によるものです。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

### シリアル番号について

システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器(基本システム)すべての保証修理が受けられます。

### 修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」に従って調べていただき、なお異常があるときは、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

### 保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーションが修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

### 保証期間が過ぎているときは

保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

### 出張修理/持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。
出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。
- 製品名
- 製造番号(Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状(できるだけ具体的に)
- ご住所(ご近所の目印等も併せてお知らせください)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

### 修理料金の仕組み

*(有料修理の場合は、次の料金をいただきます)*
- 技術料: 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代: 修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料: 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

お買上げ店名

電話 ( ) -